YAMAHA
ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。
取扱説明書
TMAX
XP500A
2PW-28199-J0●

JAU27264

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

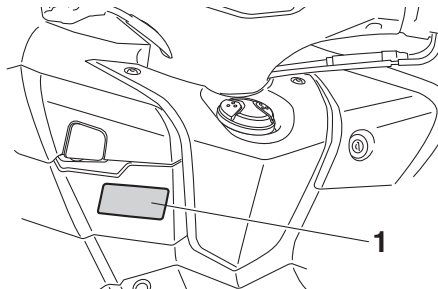
JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU67230

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

1. 安全項目ラベル

⚠ 警　告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。

- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適していま

す。

● ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。

● 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

● 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

● 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

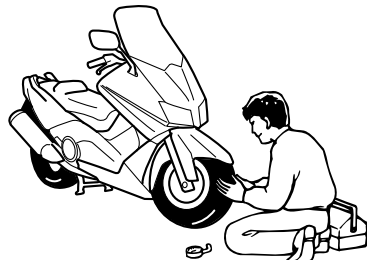
JWA11600

⚠ 警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定め

られた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。

車の異状

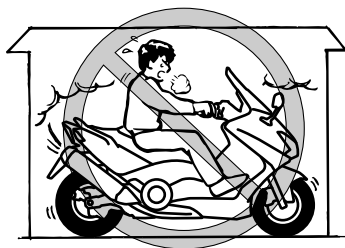
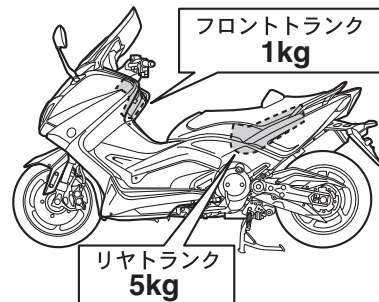
次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検･整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。

荷物を積むときは

- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損した

り、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。

- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。

押して移動するときはエンジンを止める

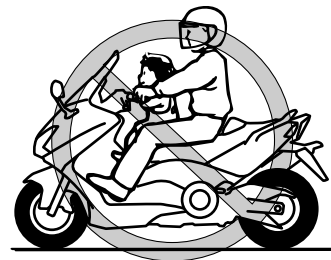
車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。

やむをえずエンジンをかけたまま移動するときは、スロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。スロットルグリップを持って行うと思わぬ事故の原因となります。

乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

タンデムシート以外の場所には人を乗せないでください。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15220

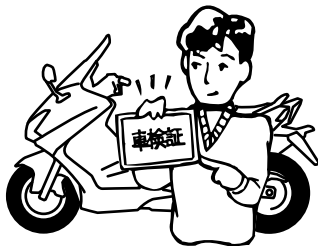
注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

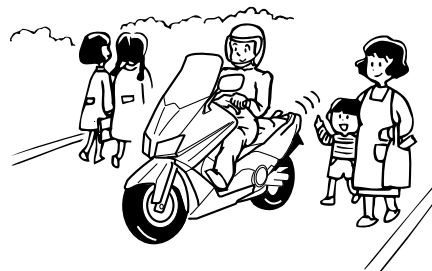
継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm^3 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

JAU66240

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

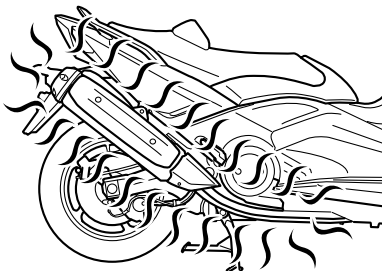
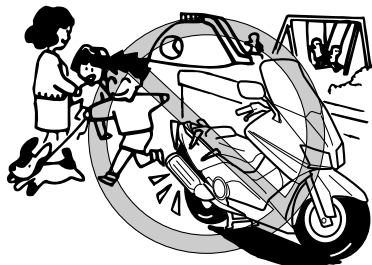
- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、スマートキーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

JWA12241

警 告

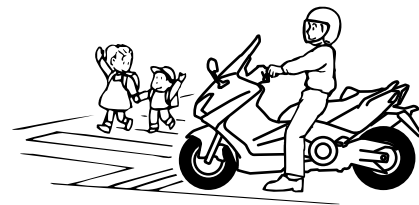
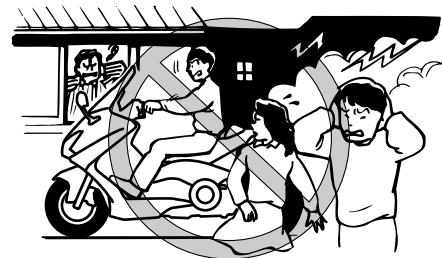
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**

昼間はヘッドライトを下向きに

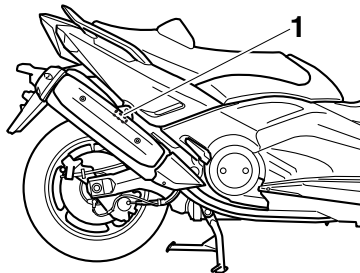
この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27651

環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

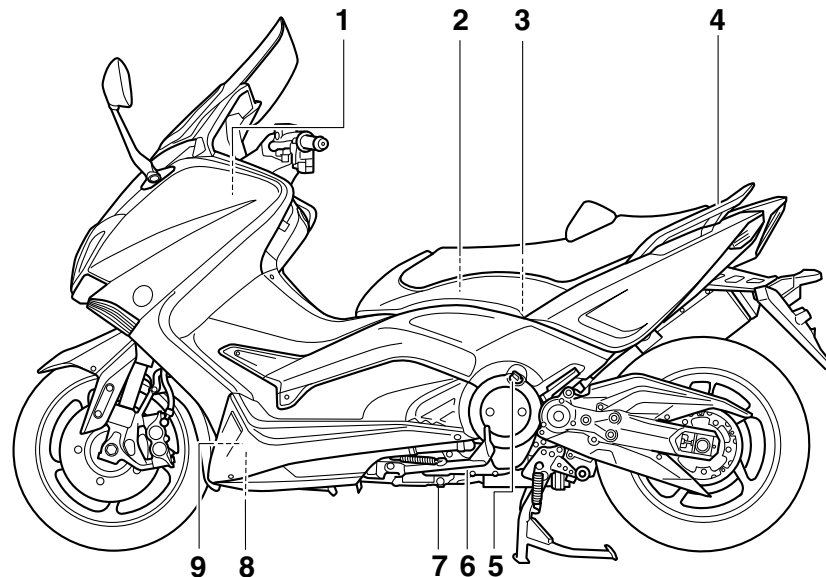
自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。

1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

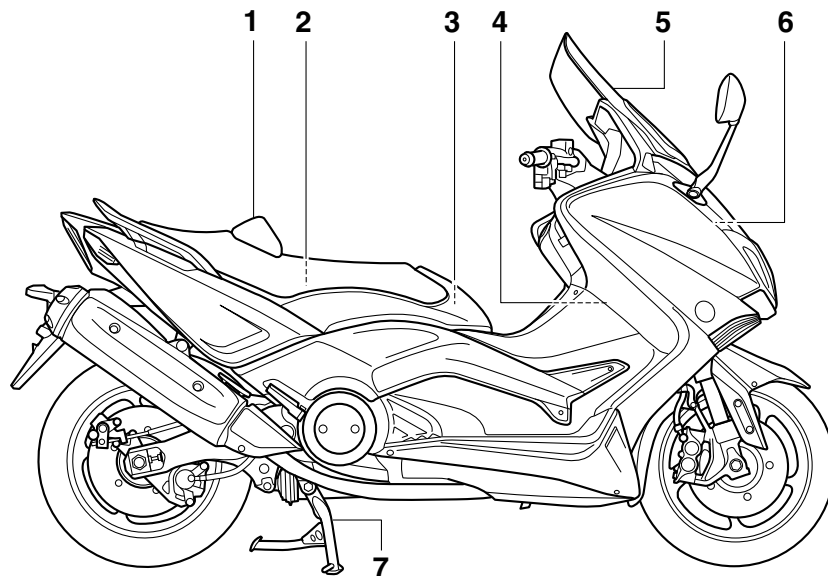
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU10411

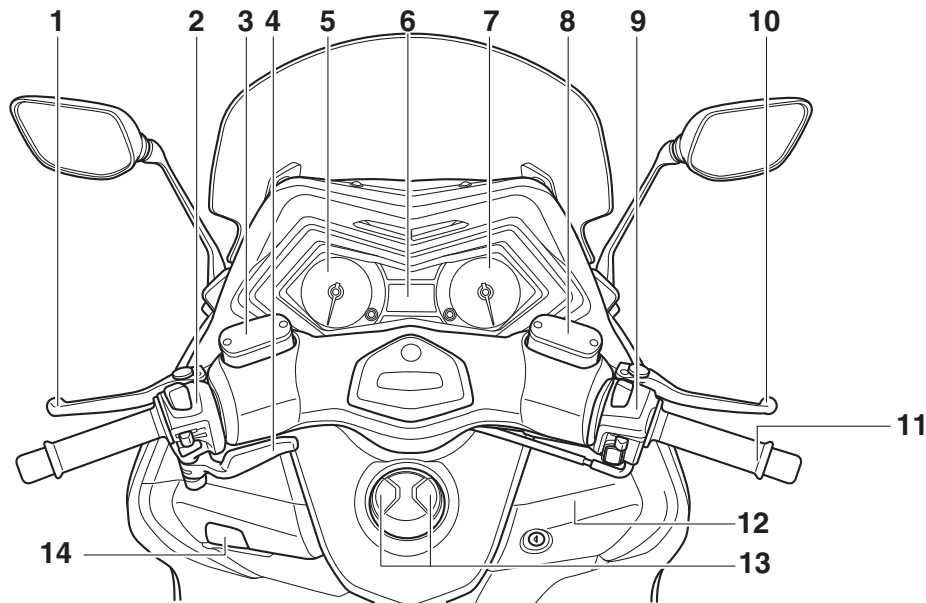
左側面

1. バッテリー（P7-15）
2. ヘルメットホルダー（P4-15）
3. リヤトランク（P4-16）
4. スタンディングハンドル（P4-20/P6-2）
5. オイル注入口（P7-4）
6. サイドスタンド（P4-21）
7. エンジンオイル点検窓（P7-4）
8. リカバリータンク (P 7-7)
9. 冷却水点検窓 （P7-7）

各部の名称

JAU10421

右側面

1. ライダーバックレスト（P4-14）
2. サービスツール（P7-2）
3. フューエルタンクキャップ（P4-13）
4. エアクリーナーエレメント（P7-9）
5. ウインドシールド（P4-17）
6. ヒューズ（P7-17）
7. メインスタンド

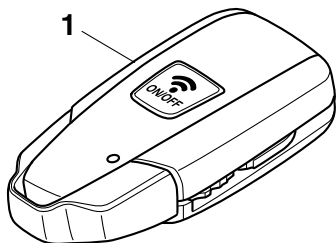
JAU10431

運転装置と計器類

1. リヤブレーキレバー（P7-11）
2. ハンドルスイッチ（左）（P4-9）
3. リヤブレーキマスターシリンダー（P7-12/P7-13）
4. リヤブレーキロックレバー （P4-11/P7-12）
5. スピードメーター（P4-2）
6. マルチファンクションディスプレイ（P4-3）
7. タコメーター（P4-3）
8. フロントブレーキマスターシリンダー（P7-12/P7-13）
9. ハンドルスイッチ（右）（P4-9）
10. フロントブレーキレバー（P7-11）
11. スロットルグリップ（P6-2）
12. フロントトランク（P4-16）
13. スマートキーシステムスイッチ (P3-1)
14. DC コネクター（P4-23）

JAU61663

スマートキーシステムの概要

スマートキーシステムは、スマートキーを持っていることにより、メカニカルキーを取り出すことなく次の操作が可能になるシステムです。

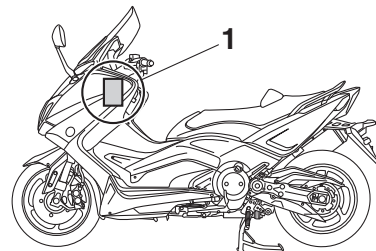
- 電源の「ON/OFF」
- エンジンの始動と停止
- ハンドルロックの解除 / 施錠
- シートロックの解除

1. スマートキー

要　点

- 長期間使用しなかったとき、またはバッテリーを取り外して再接続した場合など、車両の電源をONにしてエンジンを始動する前に、システムの関係から自動的に電源がOFF になることがあります。このようなときは、再度車両の電源を ON にしてからエンジンを始動してください。
- 最後に車を使用してから（車両の電源を ON から OFF にしてから）約 1 週間経過すると、バッテリー保護のためスマートキーの使用ができなくなります。この状態のとき電源を ON にすると、エンジンを始動する前にシステムの関係から、自動的に電源が OFF になります。このようなときは、再度車両の電源を ON にすると、エンジンを始動することができます。

JWA18060

警　告

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されている方は、車載アンテナ（イラスト参照）から約 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。スマートキーシステムは、フロントトランクの前側に設置されたアンテナを使用して微弱電波を発信しています。この電波により、植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器などの医療機器の作動に影響を与えるおそれがあります。その他の医療用電子機器をご使用のお客様は、医師や医療用電気機器製造業者などに影響の有無を確認してからご使用ください。

1. 車載アンテナ

JCA15763

注　意

スマートキーシステムは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはスマートキーシステムが正常に作動しないことがあり、各種ロックの解除や電源のONなどができないことがあります。

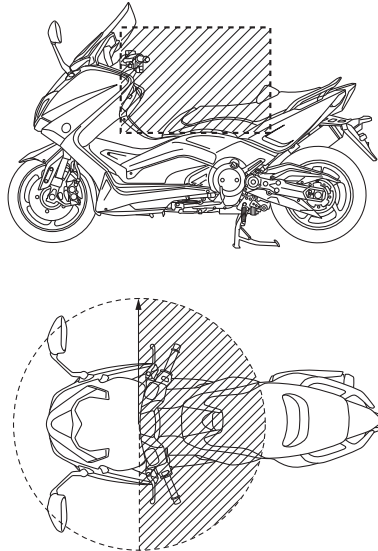
- **強い電波、ノイズのある場所に置いたとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**
- **スマートキーを、携帯電話や無線機などの通信機器と一緒に携帯しているとき、または使用しているとき。**
- **スマートキーが金属物に触れていたり、覆われているとき。**

- **スマートキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。**
- **近くで他の車がスマートキーシステムを使用しているとき。**

このようなときはスマートキーの場所を移動して、再度操作を行ってください。それでも作動しないときはメカニカルキーを使用して、エマージェンシーモード（7-22 ページ参照）の操作を行ってください。

JAU61582

スマートキーシステムの作動範囲

車がスマートキーの所在を確認して認証するときの作動範囲は、ハンドルの中心より半径約 0.8m です。

要　点

- スマートキーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が広くなったり狭くなったりすることがあります。
- スマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- スマートキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。
- スマートキーの持ち方により、作動しにくいことがあります。
- スマートキーがロック状態の場合、スマートキーを持っていてもスマートキーシステムは作動しません。スマートキーシステムが作動しない場合は、スマートキーのロック／アンロック状態を確認してください。
- 車とスマートキーが通信できない状態でスタータースイッチ “ON/ ”、OFF/ハンドルロックスイッチ、シートオープン / パーキングスイッチを連続操作したときは、盗難やいたずら目的の操作とみなし、一定の時間が経過するまで各スイッチの操作を受け付けなくなります。
- リヤトランク内やフロントトランク内は、スマートキーの作動範囲外となる場合があります。また、リヤトランク内にスマートキーを入れた状態でロックした場合、スマートキーが閉じ込められ、スマートキー

システムを使用できなくなる可能性があります。スマートキーは必ず、運転者が携帯してください。
- スマートキーを車に置き忘れると、車両盗難につながるおそれがあります。車から離れるときは、盗難予防のために必ずハンドルロックを掛け、スマートキーを持って離れてください。そのとき、スマートキーをロックの状態にすることをおすすめします。

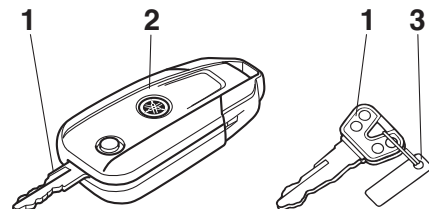
JAU61643

スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い

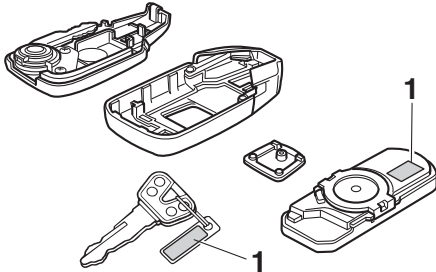
JWA17952

警 告

- **スマートキーは、運転者が必ず携帯してください。**
- **スマートキーが作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない人でもエンジンの始動やシートロックの解除、ハンドルロックの解除／施錠が可能ですので、充分に注意してください。**

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないよう、充分に注意してください。
- この車には、スマートキー 1 個、メカニカルキー 1 本、メカニカルキーの ID タグ 1 枚が付属しています。メカニカルキーと ID タグは、車の保管場所とは別にして大切に保管してください。また、ID タグの紛失に備えて、**ID 番号をメモなどに控えておくことをおすすめします。**

1. メカニカルキー
2. スマートキー
3. ID タグ

- スマートキーとIDタグ（ID番号の控えを含む）を全て紛失または破損したときは、スマートキーシステム全体の部品交換になります。詳しくは販売店にご相談ください。
- スマートキーの内側には、そのスマートキーの ID 番号を表示してあります。また2ヶ所の ID 番号にはそれぞれ、スマートキーの ID 番号（6 桁数字）およびメカニカルキーの ID 番号（アルファベット 1 文字と 4 桁数字）を表示してあります。緊急時にはこのスマートキーの ID 番号を入力することで、スマートキーを使用せずに各種ロックの解除やエンジンの始動が可能になります。緊急時の操作方法について

は、7-22 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

1. ID 番号

JCA15771

注 意

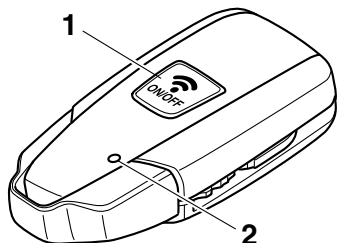
スマートキーは、信号を発信するための精密な電子部品を内蔵しています。故障の原因となりますので、以下のことを守ってください。

- **無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。**
- **水に濡らさないでください。**
- **重いものを上に置かないでください。**
- **直射日光があたる場所や、高温、多湿になるところに放置しないでください。**
- **火であぶったりしないでください。**
- **削ったり、穴を開けたりしないでください。**
- **超音波洗浄器などで洗浄しないでください。**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを近づけないでください。**
- **テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。**
- **低周波治療器などの医療用電気機器の近くに置かないでください。**
- **ガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着しないようにしてください。変形したり、ひび割れたりすることがあります。**
- **シールを貼らないでください。**

要 点

- スマートキーは車から離れているときも電池を消耗しています。
- 電池の寿命は使用状況により異なりますが、約 2 年程度です。(全く使用しなくても電池は消耗します。)
- 車両の電源をONにした時にメーターのスマートキーシステム表示灯が点滅(約 20 秒)した場合は、新しい電池に交換してください。(電池交換のしかたは、3-6 ページ参照)
- スマートキーは電波を受信し続けた場合、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。(例:テレビやパソコンなどの電気製品の近くに置いているとき)
- スマートキーのロック/アンロックスイッチを押してもスマートキー表示ランプが点灯しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。電池を交換しても直らない場合は、販売店にご相談ください。
- 予備のスマートキーが必要な場合は、販売店にご相談ください。スマートキーは、同じ車に最大6個まで登録することができます。
- スマートキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちにヤマハ販売店にご相談ください。

JAU61673

スマートキーの操作のしかた

1. ロック／アンロックスイッチ “ON/OFF”
2. スマートキー表示ランプ

スマートキーのロック／アンロック切替

スマートキーを使用できる状態（アンロック）にするか、使用できない状態（ロック）にするかの切替方法です。

スマートキーのロック／アンロックスイッチ “ON/OFF” を長押し（1 秒以上）することで、スマートキーの通信モードを切り替えることができます。

スマートキーの表示ランプが1回点滅したとき・・・スマートキーがアンロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できます）

スマートキーの表示ランプが長めに1回点滅したとき・・・スマートキーがロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できません）

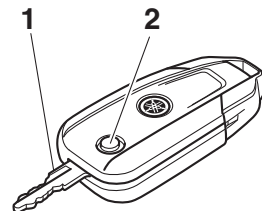
スマートキーのロック／アンロックを確認する

スマートキーのロック／アンロックスイッチ “ON/OFF” を短押し（1 秒以内）することで、現在の通信モードの状態をスマートキー表示ランプによって確認することができます。

スマートキーの表示ランプが1回点滅したとき・・・アンロックになっています。

スマートキーの表示ランプが長めに1回点滅したとき・・・ロックになっています。

メカニカルキーを使用するとき

リリースボタンを押すとスマートキーからメカニカルキーが出てきます。使用後はメカニカルキーを元の位置へ押し戻します。

1. メカニカルキー
2. リリースボタン

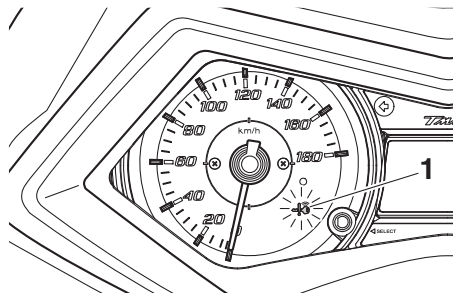
要　点

メカニカルキーはフューエルタンクキャップの取り外し、フロントトランクのロック、シートのロック解除に使用します。(4-13、4-16、7-22 ページ参照)

JAU61603

スマートキーの電池交換のしかた

次のようなときは電池残量が少なくなっているので、新しい電池と交換してください。

- 車両の電源を ON にしたときに、スマートキーシステム表示灯が約 20 秒間点滅するとき。
- スマートキーのスイッチを押しても作動しないとき。

1. スマートキーシステム表示灯 “ ”

JWA14721

警 告

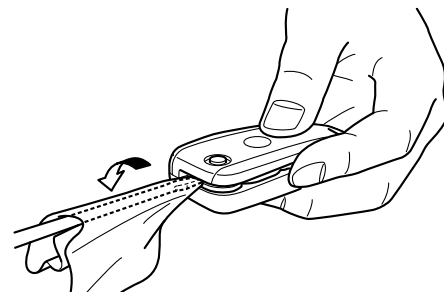
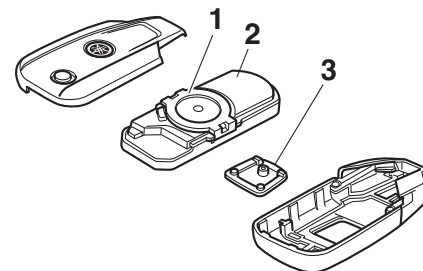
- **電池および取り外した部品は小さいため、子供が誤って飲み込み、傷害を受けるおそれがあります。電池および取り外した部品を、子供の手が届くところに置かないでください。**
- **電池を直射日光に当てたり、熱源に近づけるなどしないでください。**

JCA15781

注 意

- **ドライバーなどにウエスをあてながら、部品を取り外してください。硬いものを直接あてがうと、本体に傷をつけるおそれがあります。**
- **電池の＋極と－極は、必ず正しく取り付けてください。**
- **防水シール部分の傷つきや、ゴミの混入に注意してください。耐水性能の低下や、故障の原因となります。**
- **内部の回路や端子などに触れないでください。故障の原因となります。**
- **電池交換の際、本体に無理な力を加えないでください。**
- **電池交換後は、スマートキーシステムの各機能が正常に作動するか、必ず確認してください。**

電池交換のしかた

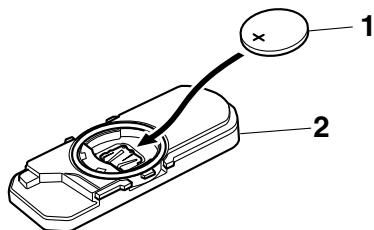
1. スマートキーのケースを開けます。

2. スイッチプレートとコントロールユニットを取り外します。
3. 電池カバーを取り外します。

1. 電池カバー
2. コントロールユニット
3. スイッチプレート

4. 電池の取り付け方向（表裏）を確認します。
5. 電池を取り外します。

要　点

取り外した電池は、電池の説明書や各自治体の規則に従って処分してください。

6. 電池を新しいものと交換します。

> **使用電池：**
> ボタン電池　CR2025×1 個

1. 電池
2. コントロールユニット

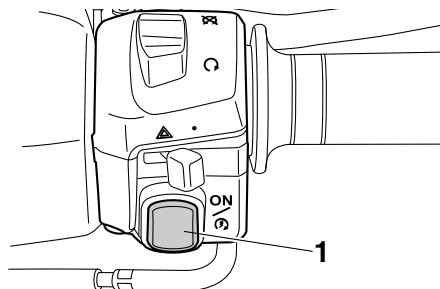
7. 電池カバーを取り付けます。
8. スマートキーを元どおりに組み立てます。

要　点

スイッチプレートを組み付ける向きに注意してください。

JAU61633

ハンドルロック解除と車両の電源 ON

1. アンロックの状態にしたスマートキーを持って、車に近づきます。
2. スタータースイッチ “ON/” を長押し（1 秒以上）します。

1. スタータースイッチ “ON/”

3. スマートキーが認証されると、「ピピッ」とアラームが 2 回鳴り、メーターのスマートキーシステム表示灯が点灯して、ハンドルロックが自動的に解除されます。

要　点

- ハンドルに力が加わっているときなど、ハンドルロックが引っ掛かって自動解除できない場合は、メーターのスマートキーシステム表示灯が点滅します。このようなときは、ハンドルを左右に少し動かしてみてください。
- ハンドルロックの自動解除ができない状態が続くと、スマートキーシステム表示灯が 16 回点滅して消灯し、自動解除動作を途中で中止します。このとき、ハンドルロックは正常に解除されていない状態になり、電源は ON になりません。この状態から電源を ON にするには、ハンドルを少し左右に切ってロックを解除したあと、スタータースイッチ “ON/” を押します。
- ハンドルロックが完全に解除されないと、車両の電源が ON になりません。
- スタータースイッチ “ON/” を押したときにアンサーバック動作をしない場合、バッテリーが弱っているか、あがっている可能性があります。バッテリーを点検し、必要に応じて充電してください。

JCA15825

注　意

ハンドルロックが解除されず、スマートキーシステム表示灯が点滅をしている場合は、スマートキーシステムの故障が考えられます。ヤマハ販売店にご相談ください。

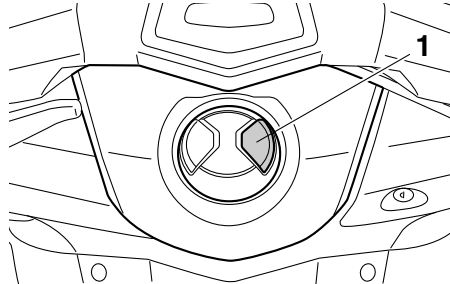
要　点

- 車から離れる際は、ハンドルが確実にロックされていることを必ず確認してください。

4. ハンドルロックの解除が完了すると、車の電源が ON になります。このとき、メーターのスマートキーシステム表示灯が消灯し、全てのセグメントを表示した後、通常表示になります。

JAU61693

車両の電源 OFF

アンロック状態のスマートキーを持って、OFF ／ハンドルロックスイッチを押す（短押しまたは長押し）ことにより、車両の電源が OFF になります。このとき、アンサーバック動作（「ピッ」とアラームが 1 回鳴ります）を行います。

1. OFF ／ハンドルロックスイッチ “OFF/LOCK”

要　点

- 車両の電源をOFFする操作は、必ず運転者自身の手で行い、電源が OFF になったことを確認してください。
- スマートキーを持った運転者がスマートキーシステムの作動範囲外に移動しても、車両の電源は自動的に OFF にはなりません。
- 走行中は、車両の電源をOFFにする操作を行うことができません。電源を OFF にする操作を行うときは、必ず車を安全な場所に停車して行ってください。
- 車両の電源を OFF にする操作時に作動範囲内にスマートキーがないと、車の電源は OFF にならずにアラームが 3 秒鳴り続け、メーターのスマートキーシステム表示灯が点滅して異常を知らせます。スマートキーの所在を確認してください。
- スマートキーが無くても、メーターのスマートキーシステム表示灯が点滅している間にもう一度電源OFFの操作を行えば、電源の OFF は可能です。
- スマートキーが無い状態で電源をONにする操作については、7-22 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

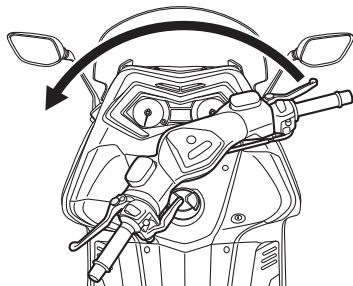
JAU61612

ハンドルロックのかけかた

車両の電源を OFF にした後、車を安全な駐車場所まで移動し、ハンドルを左へいっぱいに切った状態で OFF ／ハンドルロックスイッチを長押し（1 秒以上）します。

要　点

- 正常にハンドルロックがかかると、アンサーバック動作（「ピッ」とアラームが 1 回鳴ります）を行います。
- ハンドルロックが正しくかからない場合、アラームが 3 秒鳴り続け、キー表示灯が点滅します。ハンドルロックのロックバーが突き当たっていることがありますので、もう一度、ハンドルを左へいっぱいに切った状態でハンドルロックを試みてください。

JWA14742

⚠ 警 告

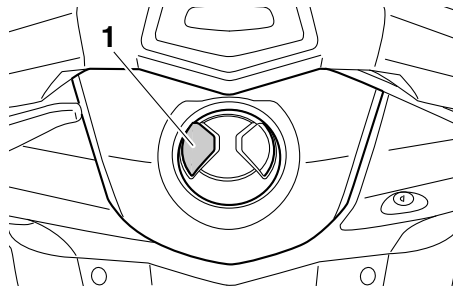
車が動いている状態では、ハンドルロック操作をしないでください。

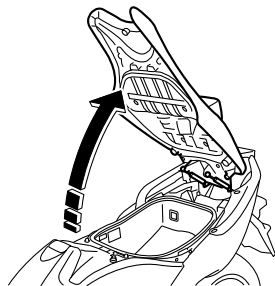
要　点

- ハンドルロックは必ず運転者自身の手でロック操作を行い、ハンドルを左右に動かして正常にロック動作が完了したことを確認して車から離れてください。ハンドルロックは自動的にはロックしません。
- 車から離れるときは、盗難予防のために必ずハンドルロックをかけ、スマートキーを持って車から離れてください。そのとき、スマートキーをロックの状態にすることをおすすめします。

JAU61683

シートの開閉

1. スマートキーがアンロックの状態で作動範囲内に入ります。
2. シートオープン／パーキングスイッチを短押し（1 秒以内）します。

1. シートオープン／パーキングスイッチ “SEAT OPEN/ P⋜”

3. スマートキーが認証されると、シートロックが解除されます。
4. シート前方を手で持ち上げてシートを開けます。

シートの閉めかた

シートを下ろし、シートの着座部分を押さえてロックします。

要　点

シートを閉めたあと、確実にロックされているか確認してください。

JAU61593

パーキングモード

ハンドルがロックされ、ハザードランプと方向指示灯を点灯させることができますが、その他の電気回路はオフになります。

パーキングモードの使いかた

1. ハンドルをロックします。(3-9 ページを参照。)
2. シートオープン／パーキングスイッチを長押し（1 秒以上）します。
3. スマートキーが認証されると、「ピピッ」とアラームが 2 回鳴ってパーキングモードになり、メーターのスマートキーシステム表示灯が点灯します。

要　点

パーキングモード使用中はシートの開閉はできません。

JCA20760

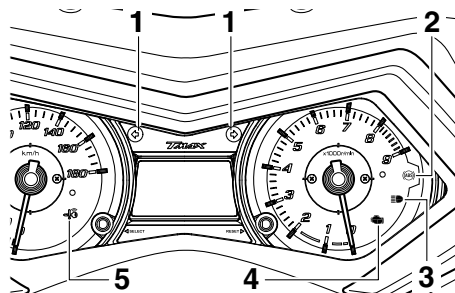
注 意

ハザードランプおよび方向指示灯の長時間の使用は、バッテリーあがりの原因になります。

パーキングモードの解除のしかた

シートオープン／パーキングスイッチを短押し（1 秒以内）します。スマートキーが認証されると、「ピッ」とアラームが 1 回鳴ってパーキングモードが解除され、メーターのスマートキーシステム表示灯が消灯します 。

JAU49398

警告灯と表示灯

1. 方向指示器表示灯 “⇦/⇨”
2. ABS 警告灯 “(ABS)”
3. ヘッドライト上向き表示灯 “≣D”
4. エンジン警告灯 “(エンジン)”
5. スマートキーシステム表示灯 “(スマートキー)”

JAU11032

方向指示器表示灯 “⇦/⇨”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11081

ヘッドライト上向き表示灯 “≣D”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU63521

エンジン警告灯 “(エンジン)”

エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要　点

- 車両の電源を ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- スタータースイッチ “ON/(スタート)” を押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

JAU65560

ABS 警告灯 “(ABS)”

走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。このような場合、直ちにヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。(4-12 ページ参照)

警告灯の電気回路は、以下の手順に従って点検することができます。

1. エンジンストップスイッチを “(ラン)” にセットし、車両の電源を ON にします。
2. 警告灯が点灯し、10 km/h 以上の速度で走行したあと消灯することを点検します。
3. 警告灯が点灯しないか、点灯したまま消灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JWA16041

⚠ 警　告

10 km/h 以上の速度で走行しても ABS 警告灯が消灯しない、または走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅したときは、ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。上記のどちらかが起こった場合、または ABS 警告灯が全く点灯しない場合は、急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

要　点

- スタータースイッチ “ON/(スタート)” を押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。
- メインスタンドを立てた状態でエンジンをかけたときに ABS 警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

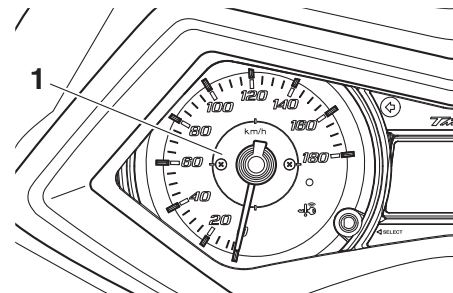
JAU61652

スマートキーシステム表示灯 “(スマートキー)”

スマートキーシステムの状態を表示します。スマートキーシステムが正常に作動しているときは、スマートキーシステム表示灯は消灯しています。スマートキーシステムに異常

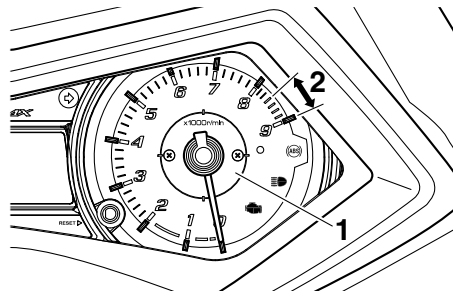
があると、スマートキーシステム表示灯が点滅します。また、走行中にスマートキーを紛失したとき、スマートキーの電池が消耗しているとき、強い電波やノイズがある場所で使用しているときなど、通信不良となったときにスマートキーシステム表示灯が点滅することがあります。ただし、走行に影響はありません。

要　点

- 車両の電源を ON にしたとき、スマートキーシステム表示灯が約 1 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- 走行中にスマートキーシステム表示灯が点滅し、車がスマートキーの所在を確認しているときは、必ず車を安全な場所に停車させてからスマートキーを探してください。
- スマートキーを紛失などして一旦エンジンを停止した場合、その後、エンジンの始動ができなくなります。このような場合、メカニカルキーがあればエンジンを始動することができます。メカニカルキーを使用してエンジンを始動する方法については、7-22 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

JAU63541

スピードメーター

1. スピードメーター

車の速度を示します。
電気回路のチェックのため、車両の電源を ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0” に戻ります。

JAU63551

タコメーター

1. レッドゾーン
2. タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

電気回路のチェックのため、車両の電源をON　にすると、指針が一旦最大値を示し、“0” に戻ります。

JCA10032

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。

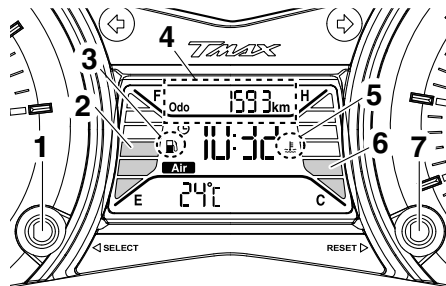
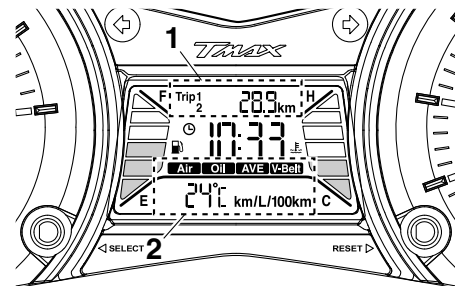
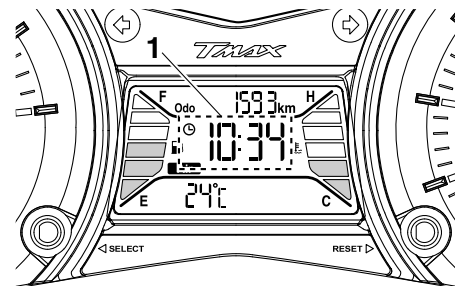
レッドゾーン : 8250 r/min 以上

JAU63562

マルチファンクションディスプレイ

JWA12161

警 告

表示の切り替え、時刻調整などの操作は、必ず停車中に行ってください。

1. “SELECT” ボタン
2. 燃料計
3. 燃料残量警告表示 “⛽”
4. オドメーター
5. 水温警告表示 “🌡”
6. 水温計
7. “RESET” ボタン

1. トリップメーター／フューエルトリップメーター
2. 外気温 / 平均燃費 / 瞬間燃費

1. 時計

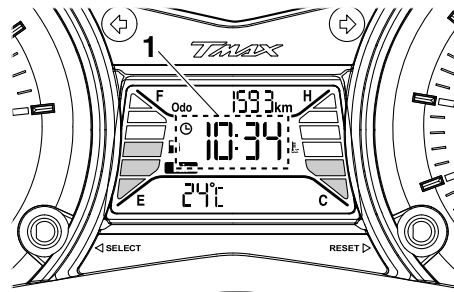
マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- 燃料計
- 水温計

- オドメーター（走行した総距離を表示します。）
- トリップメーター（Trip 1 ／ Trip 2）（リセットしてからの走行距離を積算します。）
- フューエルトリップメーター（フューエルタンクのガソリン残量が約3.0 Lになってからの走行距離を表示します。）
- 自己診断機能
- 時計
- 外気温計
- 燃費表示（平均燃費と瞬間燃費を表示します。）
- エンジンオイル交換表示
- V ベルト交換表示

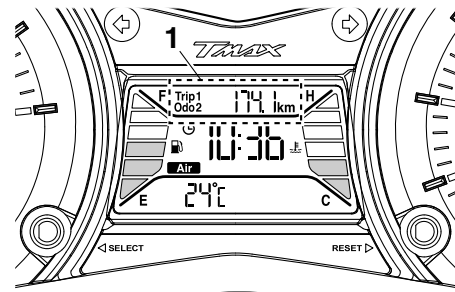
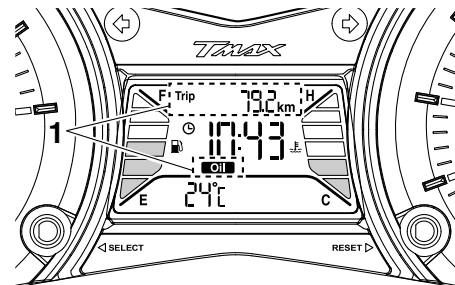
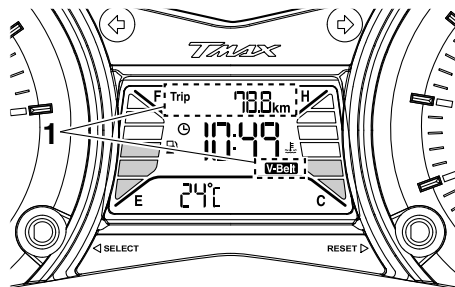
要　点

- “SELECT”ボタンや“RESET”ボタンを使用するときは、車両の電源を ON にしてください。
- 車両の電源を ON にすると、全てのセグメントを表示し、その後通常表示になります。このときマルチファンクションディスプレイは回路の点検を行っています。

時計

1. 時計

時刻調整のしかた

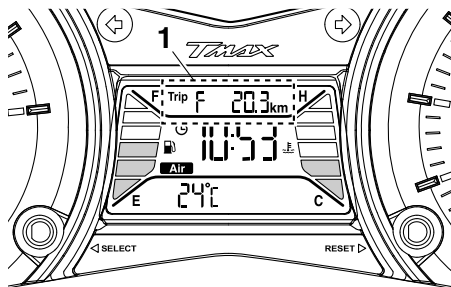
1. “SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に 2 秒以上押します。
2. <時>の表示が点滅したら、“RESET” ボタンを押して<時>を合わせます。
3. “SELECT” ボタンを押すと、<分>の表示が点滅します。
4. “RESET” ボタンを押して<分>を合わせます。
5. “SELECT” ボタンを押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

オドメーター／トリップメーター

1. オドメーター／トリップメーター／フューエルトリップメーター

1. エンジンオイルトリップメーター

1. V ベルトトリップメーター

“SELECT” ボタンを押すごとに、オドメーターモード “Odo” とトリップメーターモード “Trip” が下記の順で切り替わります。

Odo → Trip 1 → Trip 2 → V-Belt Trip → Oil Trip → Odo

フューエルタンクのガソリンの残量が約3.0 L になると、表示は自動的にフューエルトリップメーターモード “Trip F” に切り替わって、その時点からの走行距離を表示します。このとき “SELECT” ボタンを押すと、オドメーターモード “Odo” とトリップメーターモード “Trip” は下記の順に切り替わります。

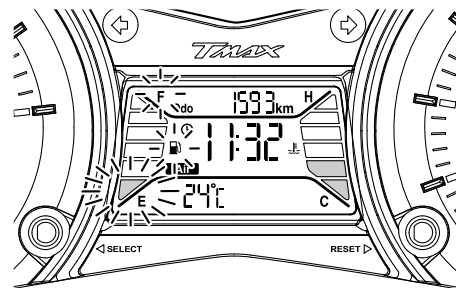
Odo → Trip 1 → Trip 2 → Trip F → V-Belt Trip → Oil Trip → Odo

1. フューエルトリップメーター

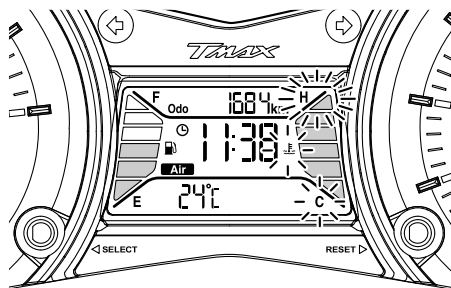
トリップメーターのリセットは、“SELECT” ボタンを押してリセットしたいトリップメーターを表示させてから “SELECT” ボタンを 1 秒以上押します。フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5km 走行すると自動的にトリップメーターの表示になります。

要　点

フューエルトリップメーター表示 “Trip F” をリセットすると、再度フューエルトリップメーター表示 “Trip F” に戻すことはできません。

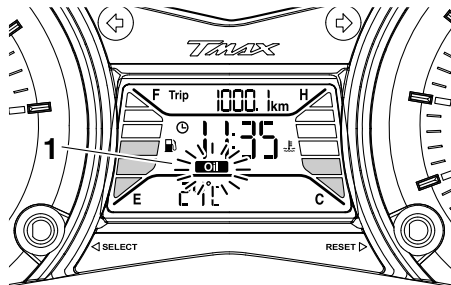
燃料計

車両の電源をONにするとフューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントの数が減ります。ガソリンの残量が少なくなると残りの 1 セグメント、燃料残量警告表示、“F” と “E” が点滅して知らせます。ガソリンの残量が少なくなったら、早めに補給してください。

水温計

車両の電源を ON にすると、冷却水の温度を表示します。冷却水の温度は天候やエンジンの負荷によって変化します。水温計のセグメント、“H”、“C” と水温警告表示が点滅したときはエンジンを止めて冷ましてください。

JCA11851

注 意

エンジンがオーバーヒートしたときは、走行しないでください。

エンジンオイル交換表示 “Oil”

1. エンジンオイル交換表示 “Oil”

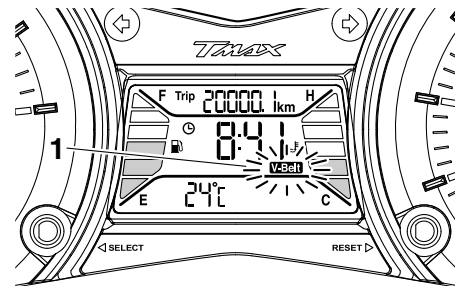
エンジンオイルの交換時期を知らせます。初回は走行距離が 1000km になると、以降はリセット後6000km走行すると表示が点滅します。エンジンオイル交換表示 “Oil” が点滅したら早めにヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。

エンジンオイル交換後は必ずリセットしてください。エンジンオイル交換表示が表示される前にオイル交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。

リセットは車両の電源を ON にして、“SELECT” ボタンで “Oil Trip” モードに切り替えます。“Oil Trip” モードの状態で “SELECT” ボタンを 1 秒以上押すと、“Oil Trip” が点滅します。点滅中に “SELECT” ボタンを 3 秒以上押すと、エンジンオイルトリップメーターがリセットされて走行距離がゼロになり、エンジンオイル交換表示 “Oil” が点滅から点灯に変わります。その後、“SELECT” ボタンボタンで必要な表示モードに切り替えます。

エンジンオイル交換表示の電気回路は以下の手順で点検することができます。

1. エンジンストップスイッチを “⭮” にセットし、車両の電源を ON にします。
2. エンジンオイル交換表示が約 2 秒間表示され、その後消灯することを点検します。
3. 表示されないときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

V ベルト交換表示 “V-Belt”

1. V ベルト交換表示 “V-Belt”

V ベルトの交換時期を知らせます。走行距離が 20000 km になると V ベルト交換表示 “V-Belt” が点滅します。早めにヤマハ販売店に V ベルトの交換を依頼してください。

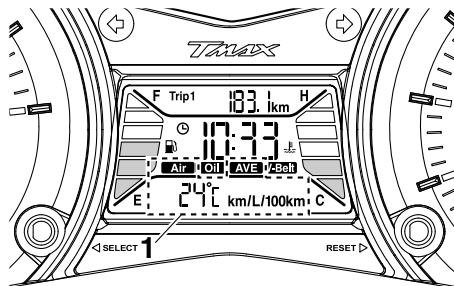
V ベルト交換後は必ずリセットしてください。V ベルト交換表示が点滅する前に V ベルト交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。

リセットは車両の電源を ON にして、“SELECT” ボタンで “V-Belt Trip” モードに切り替えます。“V-Belt Trip” モードの状態で “SELECT” ボタン を 1 秒以上押すと、“V-Belt Trip” が点滅します。

点滅中に "SELECT" ボタンを 3 秒以上押すと、V ベルトトリップメーターがリセットされて走行距離がゼロになり、V ベルト交換表示 "V-Belt" が点滅から点灯に変わります。その後、"SELECT" ボタンで必要な表示モードに切り替えます。

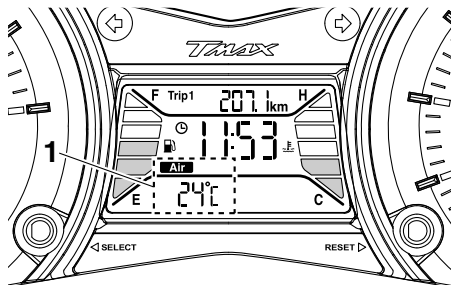
Vベルト交換表示の電気回路は以下の手順で点検することができます。

1. エンジンストップスイッチを "◯" にセットし、車両の電源を ON にします。
2. V ベルト交換表示が約 2 秒間表示され、その後消灯することを点検します。
3. 表示されないときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

外気温計／燃費表示（平均燃費と瞬間燃費）

1. 外気温 / 平均燃費 / 瞬間燃費

"RESET" ボタンを押すごとに、外気温計 "Air" と平均燃費モード "AVE_ _._ km/L" または "AVE_ _._ L/100 km"、瞬間燃費モード"km/L"または"L/100 km"が下記の順で切り替わります。

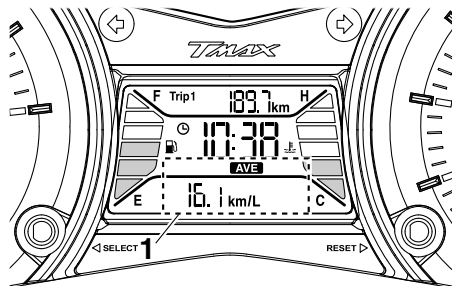
Air → AVE_ _._ km/L または AVE_ _._ L/100 km → km/L または L/100 km → Air

外気温計

1. 外気温度表示

外気温を表示します。（表示範囲は –9°C ～ 40°C、1°C 刻み）

外気の温度を感知して表示は変動します。

"RESET" ボタンを押すと燃費表示（平均燃費と瞬間燃費）に切り替わります。

平均燃費モード

1. 平均燃費表示

平均燃費の表示は、"AVE_ _._ km/L" または "AVE_ _._ L/100 km" を表示することができます。

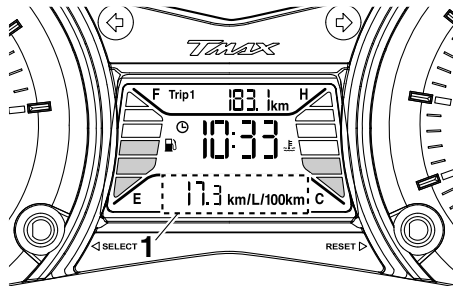
最後にリセットした地点からの平均燃費を表示します。

- "AVE_ _._ km/L" 表示に設定すると、現在の走行条件で燃料 1.0L を使って走行可能な平均距離が表示されます。
- "AVE_ _._ L/100 km" 表示に設定すると、現在の走行条件で 100km 走行するために必要な燃料の平均量が表示されます。

平均燃費をリセットするには、"RESET" ボタンを押してリセットしたい平均燃費を表示させてから "RESET" ボタンを 1 秒以上押します。

要　点

平均燃費をリセットした後、1 km 走行するまでは “_ _._” が表示されます。

瞬間燃費モード

1. 瞬間燃費表示

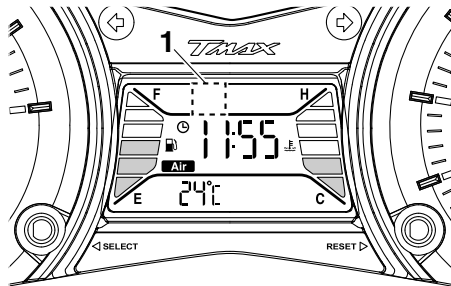
瞬間燃費の表示は、“km/L” または “L/100 km” を表示することができます。

- “km/L” 表示に設定すると、現在の走行条件で燃料 1.0L を使って走行可能な距離が表示されます。
- “L/100 km” 表示に設定すると、現在の走行条件で100km走行するために必要な燃料の量が表示されます。

“km/L” 表示と “L/100 km” 表示を切り替えるには、“RESET” ボタンを 1 秒間押します。

要　点

10 km/h 以下で走行しているときは “_ _._” が表示されます。.

自己診断機能

1. エラーコード表示

このモデルには電気回路の自己診断装置が備わっています。
回路のいずれかが故障した場合、エンジン警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示されます。
マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示された場合、エラーコードを控え、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JCA15951

注 意

マルチファンクションディスプレイがエラーコードを表示している時は、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早くヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

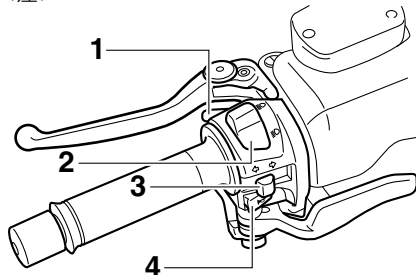
JAU12333

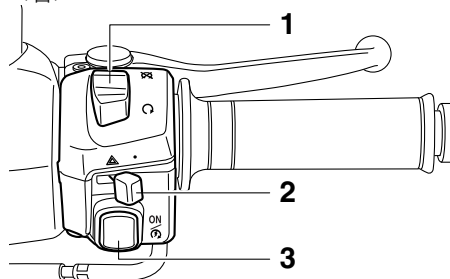
盗難警報器（別売アクセサリー）

この車には、別売アクセサリーの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU1234H

ハンドルスイッチ

<左>

1. パッシングライトスイッチ “PASS”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≣D/≣D”
3. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
4. ホーンスイッチ “ ”

<右>

1. エンジンストップスイッチ “ / ”
2. ハザードスイッチ “⚠”
3. 車両の電源 ON ／スタータースイッチ “ON/ ”

JAU12361

パッシングライトスイッチ “PASS”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが “≣D” のときは、使用できません。

JAU67240

ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≣D/≣D”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≣D（上向き）：遠くを照らします。
≣D（下向き）：近くを照らします。

要　点

- ≣D（下向き）／≣D（上向き）共に 2 灯点灯します。ただし、≣D（上向き）点灯時には≣D（下向き）は消灯します。
- 先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU12461

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときは、スイッチを押します。
⇨：右側の方向指示灯が点滅します。
⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

警　告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注　意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ “📯”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU66250

エンジンストップスイッチ “◯/⊗”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は “◯” にしておきます。

JWA12101

警　告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA22430

注　意

- **非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ず車両の電源を OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、エンジンストップスイッチを “◯” → “⊗” → “◯” にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。**

要　点

“⊗” にすると、エンジンは始動できません。

JAU63631

車両の電源 ON ／スタータースイッチ “ON/⊜”

アンロックの状態にしたスマートキーを持って車に近づき、このスイッチを短押し（1 秒以内）すると車両の電源が ON になります。
車両の電源が ON のとき、サイドスタンドを上げた状態で、リヤブレーキレバーを握りながらこのスイッチを押すと、スターターモーターが回転しエンジンが始動します。

JCA11882

注　意

- **スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。**

JAU63580

ハザードスイッチ “⚠”

車両の電源を ON にした状態で、スイッチを

4

"△" にスライドし、ハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

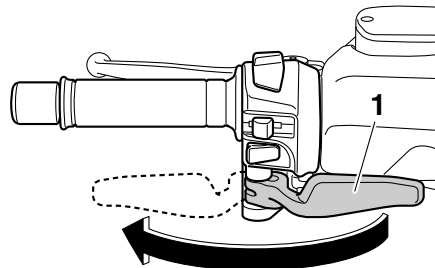
JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU63230

リヤブレーキロックレバー

エンジンを始動するとき、料金所などでの一時停車のとき、両手を離した状態で車両を停車するときなどに使用します。
リヤブレーキロックレバーを左方向へ倒すと後輪がロックされます。
リヤブレーキロックの解除は、リヤブレーキロックレバーを右方向へ戻します。

1. リヤブレーキロックレバー

JWA12501

警 告

リヤブレーキロックレバーは走行中絶対に使用しないでください。走行中に作動させると安定性を損なう場合があります。

JCA13051

注 意

確実にリヤホイールの回転が止まった状態で、リヤブレーキロックレバーを使用してください。

JAU65580

ABS

この車の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU（エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

⚠ 警 告

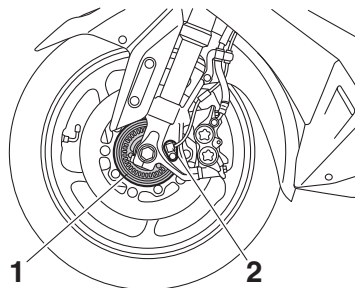
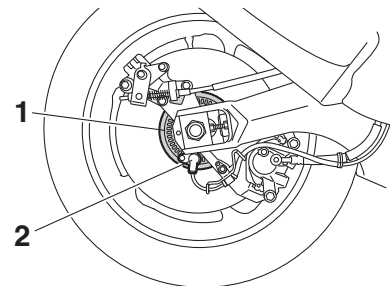
- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。**

要 点

- ABSが作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- 車両の電源を ON にして 10 km/h 以上の速度で走行するまで ABS は自己診断を行っています。この間、車の前方から“カチカチ” 音がすることがありますが、故障ではありません。
- この ABS には、ABS が作動している状態（ブレーキレバーに振動を感じる）を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。

1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー

1. リヤホイールセンサーローター
2. リヤホイールセンサー

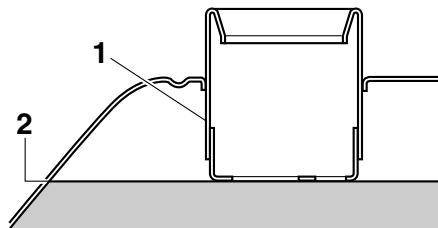
JAU63691

フューエルタンクキャップ

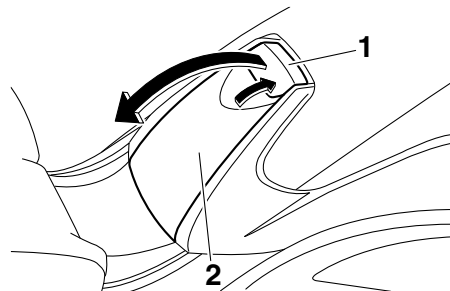
JWA12172

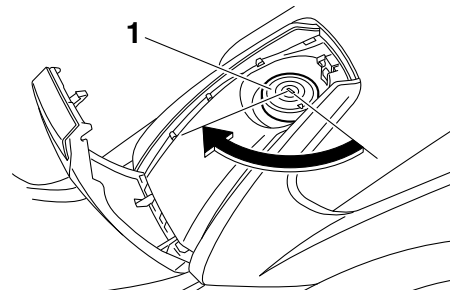
⚠ 警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

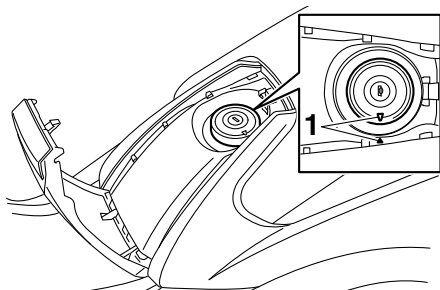
- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。

1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの取り外しかた

1. シート前方のレバーを引いて、リッドを開けます。

1. レバー
2. リッド

2. メカニカルキーをロックに差し込み、時計方向に回します。ロックは解除され、フューエルタンクキャップを取り外すことができます。

1. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. 合マークを合わせ、フューエルタンクキャップを給油口に差し込み、キャップを押して取り付けます。

1. 合マーク

2. メカニカルキーを反時計方向に回し、メカニカルキーを抜き取ります。
3. リッドを閉めます。

要　点

フューエルタンクキャップを取り外した状態では、メカニカルキーを抜き取ることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、メカニカルキーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 15.0 L

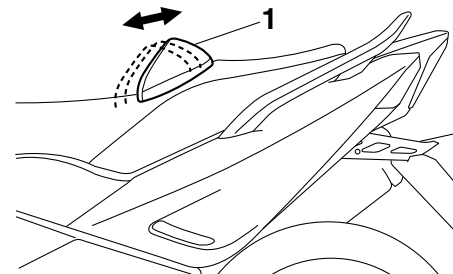
JCA12512

注　意

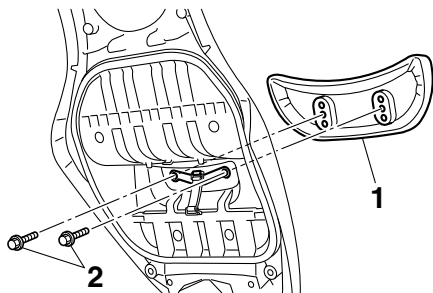
- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU14271

可変式ライダーバックレスト

各自の体格や好みに合わせてライディングポジションが調整できる、可変式ライダーバックレストを装備しています。

1. ライダーバックレスト

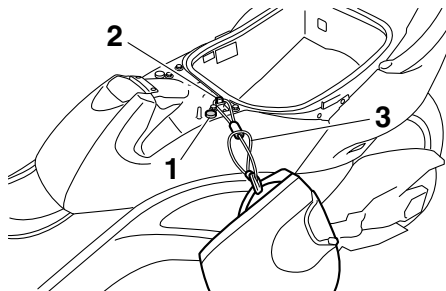
調整方法

調整範囲は 3 段階あります。シートを開け、シート裏側のボルトを外し、ライダーバックレストの取り付け位置を調整します。

1. ライダーバックレスト
2. ボルト

JWA12141

⚠ 警 告

シート調整後、左右のボルトを確実に締め付けてください。

JAU46261

ヘルメットホルダー

1. 網かけで示した部分
2. ヘルメットホルダー
3. ヘルメットホールディングケーブル

シート下にヘルメットホルダーがあります。シート裏側に収納されているヘルメットホールディングケーブルを使用します。
ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けるとき、網かけで示した部分にヘルメットホールディングケーブルがかからないようにして、シートを閉めてください。

要 点

シートがロックされていることを確認してください。

JWA11651

⚠ 警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

JCA12451

注 意

ヘルメットホールディングケーブルの両端をヘルメットホルダーに掛けるなどの方法で使用すると、トランク内に雨水やホコリなどが入ることがあります。

JAU28521

書類入れ

メンテナンスノート、自賠責保険証はビニール袋に入れて、トランク内に保管してください。

JAU63510

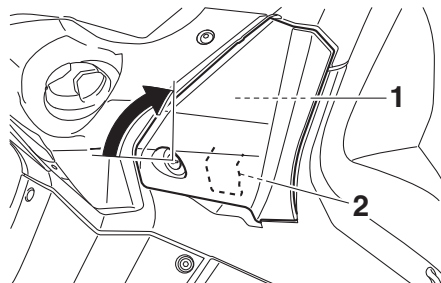
トランク

JWA18200

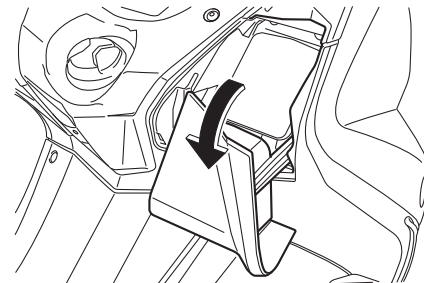
警告

以下の荷重制限を越えないでください。

- **フロントトランク：1 kg**
- **リヤトランク：5 kg**

フロントトランク

1. リッド
2. レバー

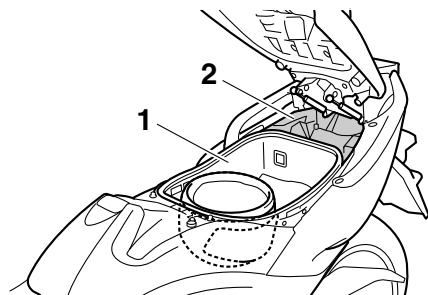
フロントトランクがロックされているときは、メカニカルキーをロックに差し込み、時計方向に回してロックを解除してからレバーを持ち上げるようにして手前に引いて開けます。

フロントトランクがロックされていないときは、そのままレバーを持ち上げるようにして手前に引いて開けます。

閉めるときは、リッドを元の位置に戻します。

フロントトランクをロックするときは、リッドを閉めてからメカニカルキーをロックに差し込み、反時計方向に回してメカニカルキーを抜きます。

リヤトランク

シートの下にリヤトランクがあります。(3-9ページ参照)ヘルメットを収納するときは、ヘルメットの前部を左側に向けて逆さに置きます。

シートを開けるとトランク照明灯が点灯します。トランク照明灯は車の電源のON/OFFに関係なく点灯し、シートが開いている間は点灯します。

1. リヤトランク
2. 網かけで示した部分

JCA15963

注 意

- **シートは長時間開けたままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。**
- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **トランク内は直射日光、エンジンの熱などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。**

JCA16092

注 意

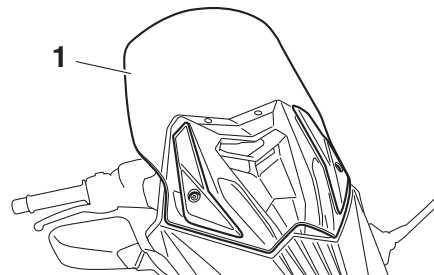
網かけで示した部分は、トランクではありません。シートヒンジの損傷を防ぐために、この場所に物を置かないでください。

要 点

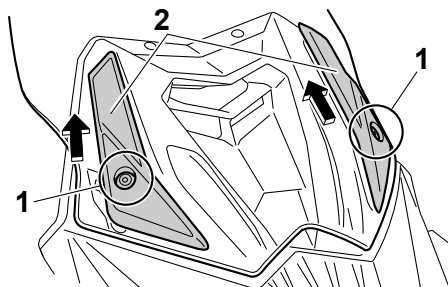
- リヤトランクにはフルフェイスヘルメットが収納可能ですが、形状によっては入らないものもあります。
- シートを降ろしたら、シートがロックされているか確認してください。
- 車から離れるときは必ずシートをロックしてください。
- スマートキーをトランク内に入れたままシートを閉じると、ロックされ開けられなくなります。注意してください。

JAU52212

ウインドシールド

この車のウインドシールドは、運転される方に合わせて 2 つの位置に調整できます。

1. ウインドシールド

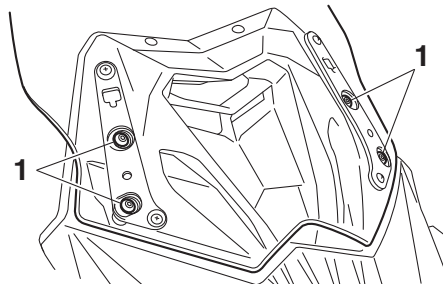
ウインドシールドの高さ調整のしかた

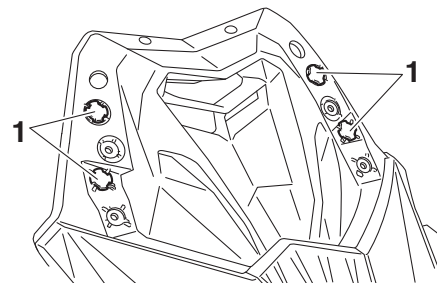
1. クイックファスナーを外し、スクリューアクセスカバーを取り外します。

1. クイックファスナー
2. スクリューアクセスカバー

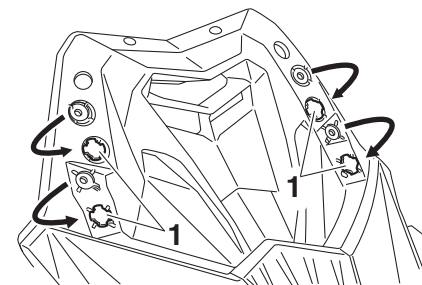
要　点

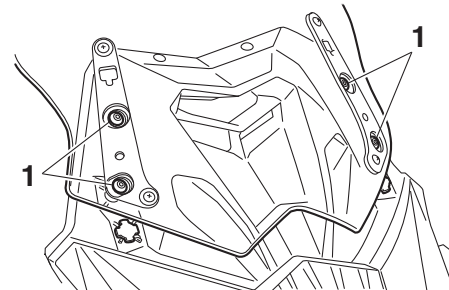
クイックファスナーはセンターピンを押し込んで取り外します。

1. クイックファスナー
2. センターピン

2. ウインドシールドスクリューを外し、ウインドシールドを取り外します。

1. ウインドシールドスクリュー

3. ゴムカバーを取り外します。

1. ゴムカバー

4. ゴムカバーを任意の位置に取り付けます。

1. ゴムカバー

5. ウインドシールドを任意の位置に取り付け、スクリューを取り付けます。

1. ウインドシールドスクリュー

6. ウインドシールドスクリューを規定のトルクで締め付けます。

4

JWA15511

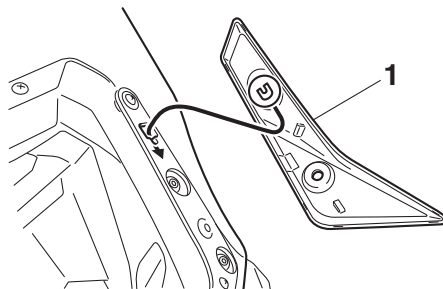
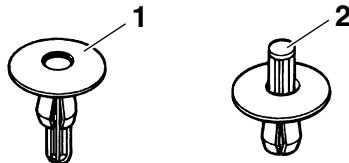
⚠ 警 告

ウインドシールドのゆるみは事故の原因となるおそれがあります。規定のトルクでスクリューを締め付けてください。

締め付けトルク：
ウインドシールドスクリュー： 10 Nm (1.0 m・kgf)

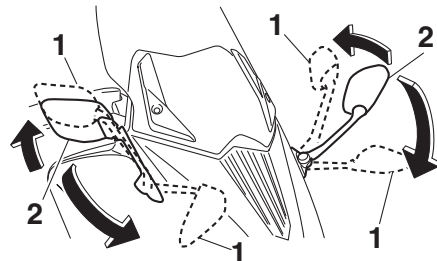
7. スクリューアクセスカバーを取り付け、クイックファスナーを取り付けます。

要　点

クイックファスナーはセンターピンをクイックファスナーの面から押し出した状態で取り付け、その後センターピンをクイックファスナーの面と同じ位置まで押し込みます。

1. スクリューアクセスカバー

1. クイックファスナー（取り外した状態）
2. クイックファスナー（取り付け前）

JAU39672

バックミラー

この車のバックミラーは、狭いスペースで駐車するために前方または後方に折りたたむことができます。乗車する前に、バックミラーを元の位置に折り返してください。

1. 駐車するときの位置
2. 乗車するときの位置

JWA14372

⚠ 警 告

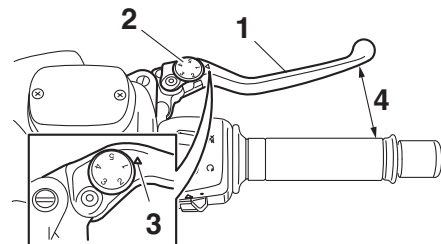
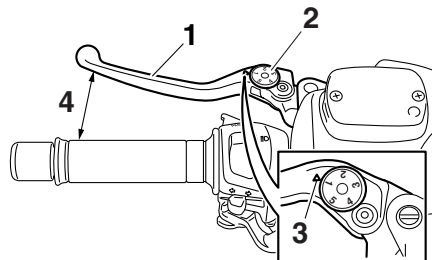
乗車する前には、必ずバックミラーを元の位置に折り返すようにしてください。

JAU46201

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。

握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。

＜フロントブレーキ＞

1. フロントブレーキレバー
2. アジャスター
3. “△” マーク
4. 握り幅

＜リヤブレーキ＞

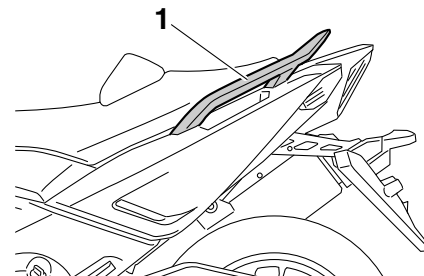
1. リヤブレーキレバー
2. アジャスター
3. “△” マーク
4. 握り幅

要　点

アジャスターの数字と “△” マークを、必ず合わせてください。

JAU29911

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。

1. スタンディングハンドル

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠ 警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

4

JAU63612

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチおよびブレーキランプスイッチを含む）には次の機能があります。

- サイドスタンドが上がっているが、どちらかのブレーキレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- どちらかのブレーキレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- サイドスタンドを下げると、エンジンは停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11551

⚠ 警 告

- **点検中はメインスタンドを立ててください。**
- **点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。**

エンジンが停止した状態で：
1.サイドスタンドを下ろします。
2.エンジンストップスイッチを“ ”にします。
3. 車の電源をONにします。
4.リヤブレーキレバーを握ります。
5.スタータースイッチ“ON/ ”を押します。
エンジンは始動しましたか？
いいえ
はい
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが停止した状態のまま：
6.サイドスタンドを上げます。
7.リヤブレーキレバーを握ります。
8.スタータースイッチ“ON/ ”を押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
ブレーキランプスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが始動した状態のまま：
9.サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？
はい
いいえ
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。走行可能です。

JAU63800

DC コネクター

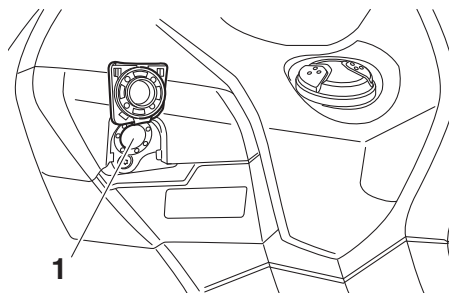
JWA12532

警 告

感電または短絡のおそれがあるため、DC コネクターを使用しない場合は、必ずキャップを取り付けてください。

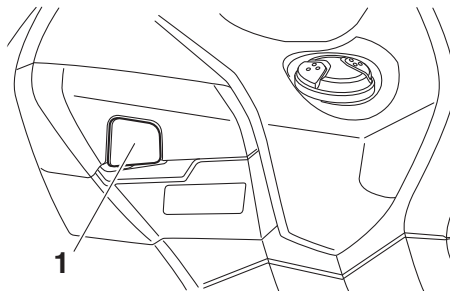
JCA20090

注 意

DC コネクターに接続したアクセサリーは、エンジンが停止している場合には使用しないでください。また、接続負荷が 24 W (2 A) を超えないようにしてください。ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。

1. DC コネクターキャップ

1. DC コネクター

この車には、DC コネクターが搭載されています。

DC コネクターに接続した 12 V のアクセサリーは、車両の電源が ON のとき使用することができます。

JAU15598

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)

JAU30173

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11733

警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU63621

要　点

この車は、以下の機構を装備しています。
- 車両の電源がONのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。このとき、ディスプレイにエラーコード30を表示しますが、故障ではありません。また、この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合は車両の電源を一旦OFFにして、再度ONにするリセット操作をしてください。このリセット操作を行うと、エラーコード30も表示されなくなります。
- 車両が停止した状態で20分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU65590

エンジン始動

JCA11921

注　意

初めて車両を運転する前に、6-3ページのならし運転のしかたを参照してください。

要　点

サイドスタンドを下ろした状態では、エンジンは始動できません。また、エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止します。

JWA11562

警　告

- **エンジンを始動するときには、4-21ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. メインスタンドを立てます。
2. リヤブレーキロックレバーで後輪をロックします。
3. 車両の電源をONにし、エンジンストップスイッチが“◯”にセットされていることを確認します。
4. スロットルを完全に閉じます。
5. リヤブレーキレバーをしっかり握り、スタータースイッチ“ON/⊛”を押して、エンジンを始動させます。

要　点

スタータースイッチ“ON/⊛”で5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10秒位休ませてからスタータースイッチ“ON/⊛”を押してください。

JCA15992

注　意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを回して固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU44151

発進

JWA12261

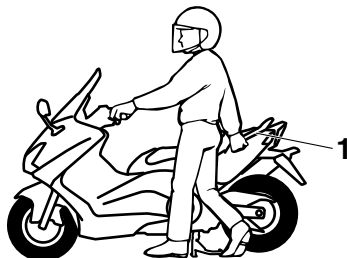
警 告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちながら、車を前に押し出してメインスタンドを戻します。

1. スタンディングハンドル

JWA12271

警 告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。
3. リヤブレーキロックレバーを解除します。
4. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
5. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12281

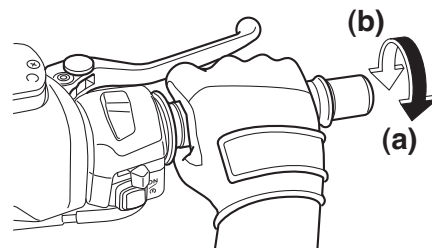
警 告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

6. 方向指示器を消灯します。

JAU16782

加速と減速

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉じたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。

JCA12681

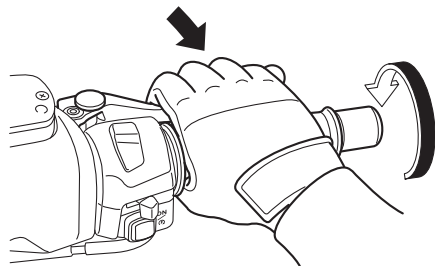
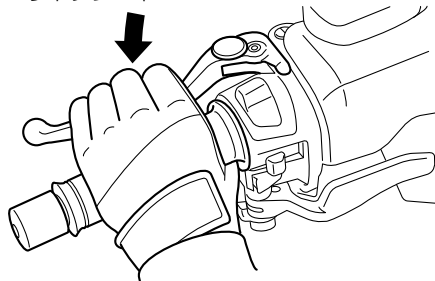
注 意

上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となります。

JAU16794

ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

<フロントブレーキ>

<リヤブレーキ>

JWA11573

警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

JAU31471

ならし運転

JAU27663

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 5000 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU63740

駐車

駐車するときは、車の電源を OFF にしてエンジンを止め、運転者はスマートキーを持って車から離れてください。
また盗難予防のため、ハンドルロックをかけることをおすすめします。

JWA11582

警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

要 点

お店のガラス越しや家の塀越しなどの隔てた場所に駐車した場合でも、車がスマートキーシステムの作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない他の人でもエンジンの始動や、シートの開閉、ハンドルロックの解除が可能になります。このようなときは、スマートキーをロックの状態にしてください。（スマートキーのロック／アンロック切替操作方法は、3-5 ページを参照してください）

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

5-1ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

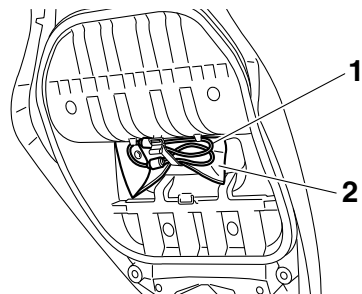
警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

7

JAU39692

サービスツール

1. ヘルメットホールディングケーブル
2. サービスツール

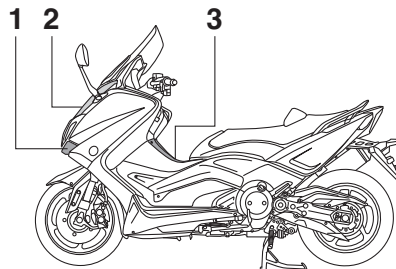
サービスツールはシートの裏側にあります。(3-9 ページ参照)

JAU18752

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

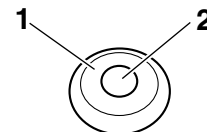
1. カバー A
2. カバー B
3. カバー C

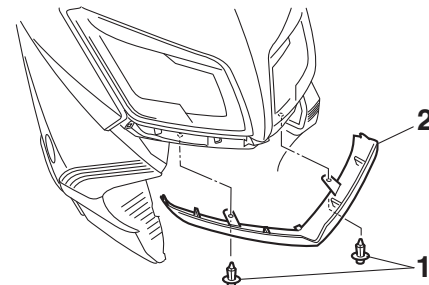
JAU66420

カバー A

カバーの取り外しかた

1. クイックファスナーを取り外します。

要　点

クイックファスナーはセンターピンを押し込んで取り外します。

1. クイックファスナー
2. センターピン

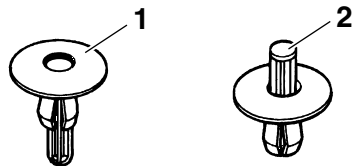
2. カバーを前方に引き出しながら取り外します。

1. クイックファスナー
2. カバー A

カバーの取り付けかた

カバーを元の位置に取り付け、クイックファ

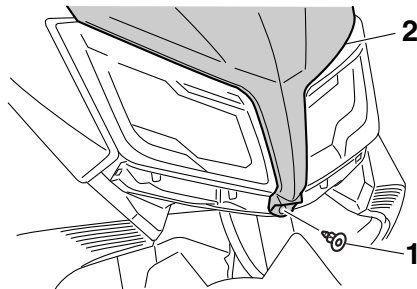
スナーを取り付けます。

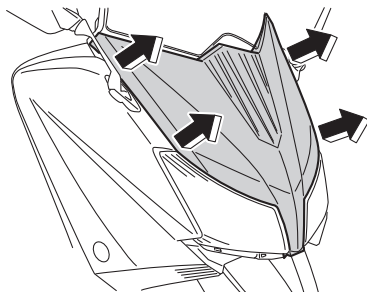
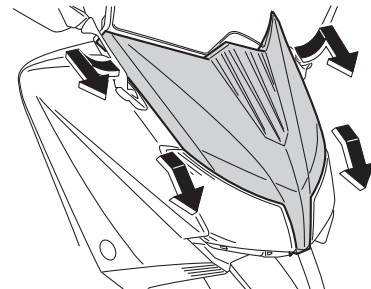
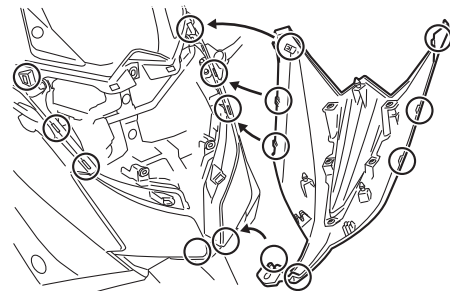
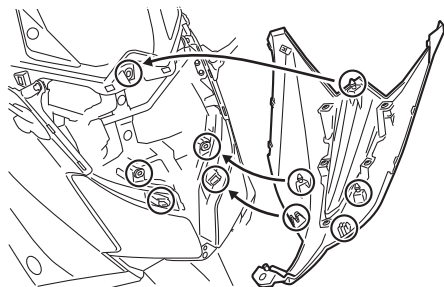
要　点

クイックファスナーはセンターピンをクイックファスナーの面から押し出した状態で取り付け、その後センターピンをクイックファスナーの面と同じ位置まで押し込みます。

1. クイックファスナー（取り外した状態）
2. クイックファスナー（取り付け前）

カバー B

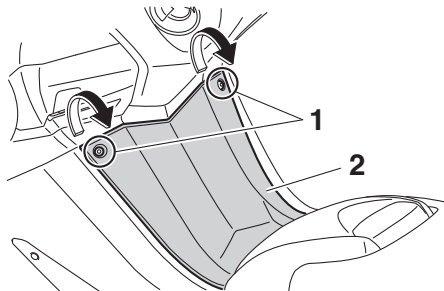
カバーの取り外しかた

1. カバー A を取り外します。
2. クイックファスナーを取り外します。

1. クイックファスナー
2. カバー B

3. 図のように左右のカバー上部を上向きに引き出します。

4. 図のようにカバーを下側に引き出しながら取り外します。

カバーの取り付けかた

カバーを元の位置に取り付け、クイックファスナーを取り付けます。

カバー C

カバーの取り外しかた

スクリューを外し、図のようにカバーを取り外します。

1. スクリュー
2. カバー C

カバーの取り付けかた

カバーを元の位置に取り付け、スクリューを締め付けます。

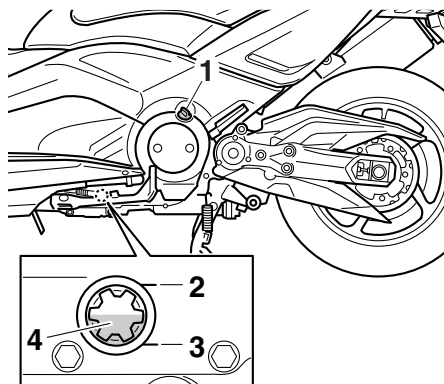
JAU30405

エンジンオイル

エンジンオイル量の点検

要　点

エンジンオイル量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

1. 平坦な場所でメインスタンドを立てます。
2. エンジンを始動し、2 分間アイドリング運転します。
3. エンジンを止めて 2 分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

1. オイル注入口
2. フルレベル
3. ロアレベル
4. エンジンオイル点検窓

4. オイル量がロアレベル以下のときはエンジンオイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、8-4 ページ参照)

JAU66260

エンジンオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
6000 km 走行ごと、または
1 年ごと
エンジンオイル量：
オイルフィルターカートリッジ
無交換時：
2.70 L
オイルフィルターカートリッジ
交換時：
2.90 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
18000 km 走行ごと

JWA11861

警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

要 点

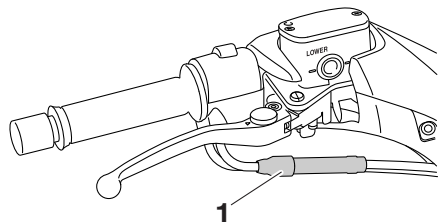
- エンジンオイル交換表示 “Oil” は回路の確認のため、走行距離に関係なく車両の電

源を ON にすると約 2 秒間表示されます。
- エンジンオイル交換表示 “Oil” が点滅したときは、早めにヤマハ販売店でオイル交換を受け、リセット操作をしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。（4-3 ページ参照）

JAU30691
エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194
低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。
- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

1. ゴムカバー

JWA15531

⚠ 警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

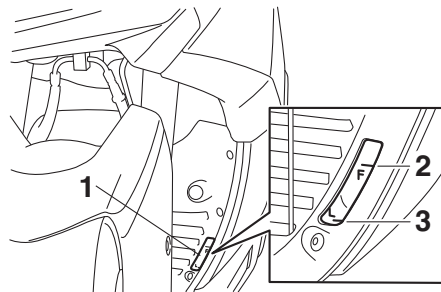
冷却水

JAU57180

冷却水量の点検

要　点

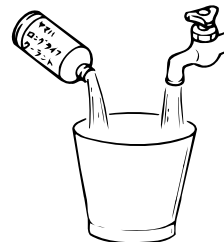
冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

フロントカウリングの左下にある点検窓から、リカバリータンク内の冷却水量がフルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。

1. 冷却水点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30804

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。

JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12111

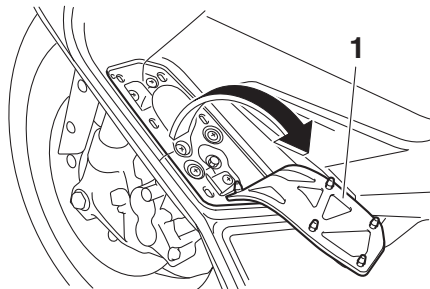
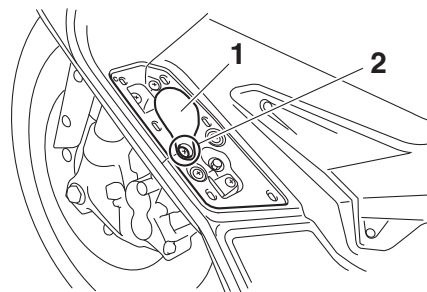
注 意

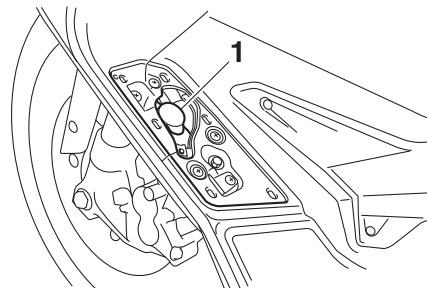
補充する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU57190

冷却水の補充

フロントカウリングの左下にある点検窓からリカバリータンク内の冷却水量を点検します。液面がロアレベルより下にあるときは、冷却水をフルレベルまで補充します。

1. 左のフットボードラバーを外し、スクリューを外してリカバリータンクカバーを取り外します。

1. フットボードラバー

1. リカバリータンクカバー
2. スクリュー

2. リカバリータンクキャップを外し、冷却水をフルレベルまで補充します。

1. リカバリータンクキャップ

3. リカバリータンクキャップ、リカバリータンクカバー、フットボードラバーを取り付けます。

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU49171

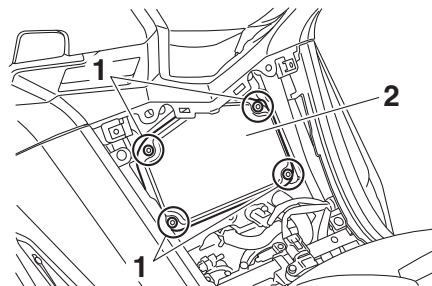
エアクリーナーエレメントの交換

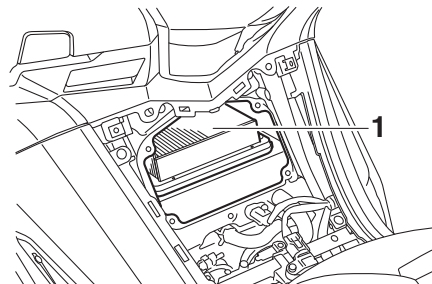
エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。

JCA11951

注 意

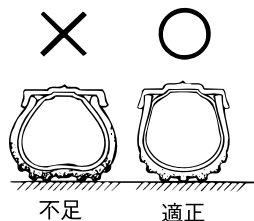
- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。**

1. カバー C を取り外します。(7-2 ページ参照)
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。

1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー

3. エアクリーナーエレメントを取り外します。

1. エアクリーナーエレメント

4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
6. カバー C を取り付けます。

JAU31026

タイヤ
空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
2 名乗車：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪：
280 kPa (2.80 kgf/cm^2)
高速走行（1 名乗車）：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
高速走行（2 名乗車）：
前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪：
280 kPa (2.80 kgf/cm^2)

要　点
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠ 警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：
前輪：
120/70R15 M/C 56H
後輪：
160/60R15 M/C 67H
指定タイヤ：
前輪：
DUNLOP/GPR-100F
後輪：
DUNLOP/GPR-100

JAU29161

ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキレバーの遊びの点検

フロントブレーキ、リヤブレーキとも、ブレーキレバーの遊びはありません。

JWA11751

⚠ 警　告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠ 警　告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU34991

リヤブレーキロックのきき具合

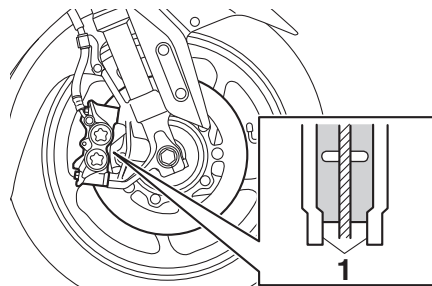
リヤブレーキロックをかけ、車を押してリヤブレーキロックのききが充分であるか点検します。リヤブレーキロックのききが不充分なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU46171

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

<フロントブレーキ>

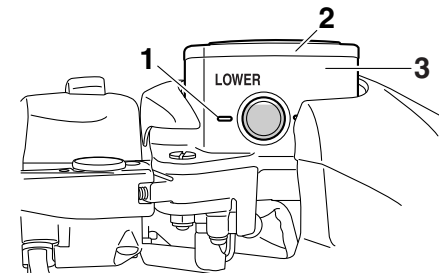
ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら交換してください。

1. インジケーター

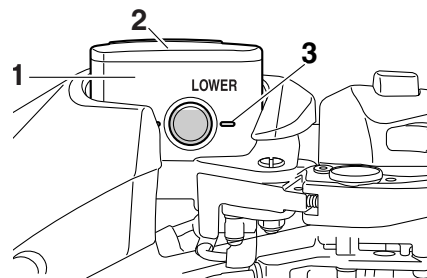
<リヤブレーキ>

リヤブレーキパッドの摩耗の点検は、ヤマハ販売店でお受けください。

JAU44232

ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>

1. ロアレベル
2. ブレーキリザーバータンクキャップ
3. リザーバータンク

<リヤブレーキ>

1. リザーバータンク
2. ブレーキリザーバータンクキャップ
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

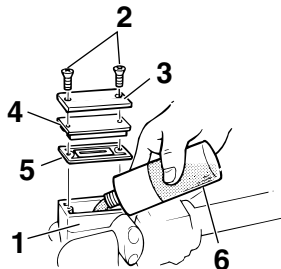
JWA12151

警告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

JAU31197

ブレーキ液の補給

1. マスターシリンダーのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、スクリューを締め付けます。

1. マスターシリンダー
2. スクリュー
3. キャップ
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム
6. ブレーキ液

指定ブレーキ液：
ヤマルーブ ブレーキフルード
BF-4 (DOT-4)

JWA12072

警告

- **ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。**
- **ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。**
- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

JCA12331

注意

- **ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。**
- **ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム**

類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

JAU51991

ドライブベルト

ドライブベルトは、定期的な点検、調整と交換が必要です。
ドライブベルトの点検、調整と交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

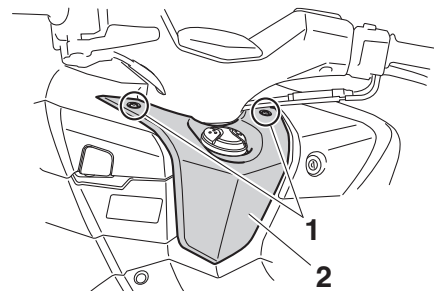
JCA12142

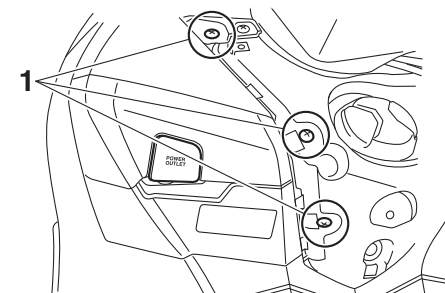
注 意

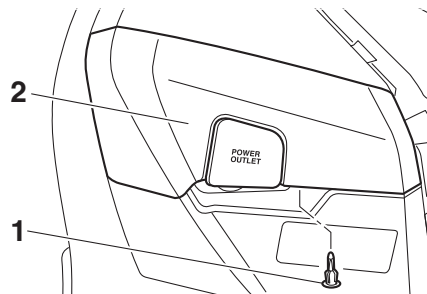
- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAU66430

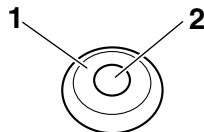
バッテリーの取り外し

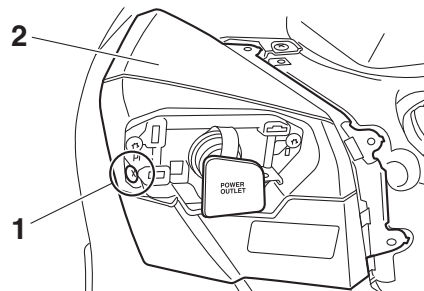
1. 車の電源を OFF にします。
2. スクリューを外し、カバーを取り外します。

1. スクリュー
2. カバー

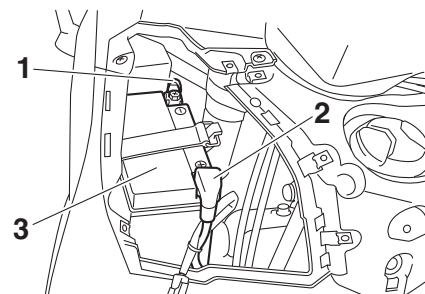
3. スクリューを取り外します。

1. スクリュー

4. クイックファスナーを取り外し、DC コネクターカバーを取り外します。

1. クイックファスナー
2. DC コネクターカバー

要　点

クイックファスナーはセンターピンを押し込んで取り外します。

1. クイックファスナー
2. センターピン

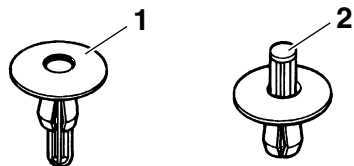
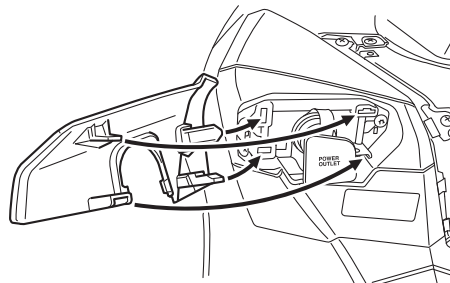
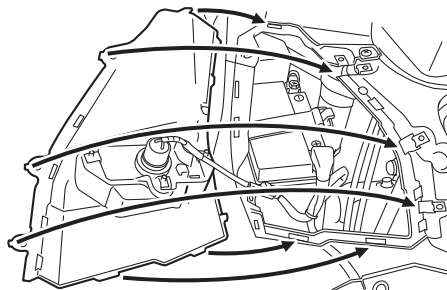
5. スクリューを外して DC コネクター本体を取り外します。

1. スクリュー
2. DC コネクター本体

6. −（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
7. バッテリーバンドを外し、バッテリーを取り外します。

1. −リード線
2. ＋リード線
3. バッテリー

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

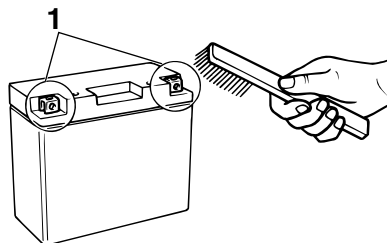
要　点

クイックファスナーはセンターピンをクイックファスナーの面から押し出した状態で取り付け、その後センターピンをクイックファスナーの面と同じ位置まで押し込みます。

1. クイックファスナー（取り外した状態）
2. クイックファスナー（取り付け前）

JAU29411

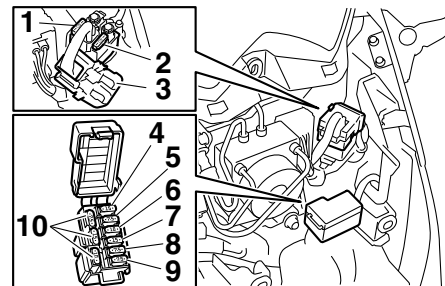
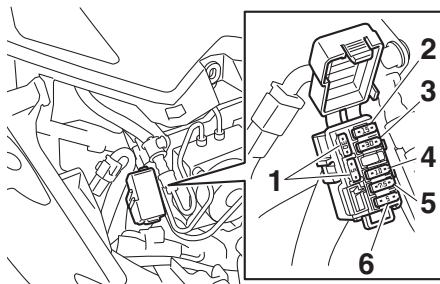
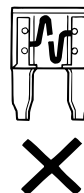
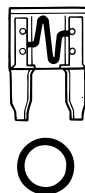
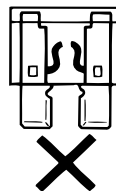
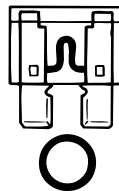
ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

1. ターミナル

JAU65600

ヒューズ交換

メインヒューズ、系統別ヒューズはカバーBの下にあります。（7-2 ページ参照）
ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. 車の電源を OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

1. メインヒューズ
2. スペアメインヒューズ
3. スターターリレーカバー
4. シグナルシステムヒューズ
5. イグニッションヒューズ
6. パーキングランプヒューズ
7. ラジエターファンモーターヒューズ
8. フューエルインジェクションヒューズ
9. バックアップヒューズ
10.スペアヒューズ

1. スペアヒューズ
2. ABS ソレノイドヒューズ
3. ABS モーターヒューズ
4. ヘッドライトヒューズ
5. ABS コントロールユニットヒューズ
6. DC コネクターヒューズ

規定ヒューズ：
メイン :
40.0 A
ヘッドライト :
10.0 A
シグナル :
15.0 A
イグニッション :
7.5 A
ラジエターファンモーター :
15.0 A
フューエルインジェクション :
7.5 A
パーキングランプ :
10.0 A
ABS コントロールユニット :
7.5 A
ABS モーター :
30.0 A
ABS ソレノイド :
15.0 A
バックアップ :
7.5 A
DC コネクターヒューズ :
5.0 A

JCA12862

注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

3. 車の電源を ON にし、それぞれの電気装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU66270

灯火装置および方向指示灯の点検

1. 車両の電源を ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-17 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（9-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU57213

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. 車両の電源は ON になっていますか？また、エンジンストップスイッチは “◯” になっていますか？
2. ガソリンはありますか？
   燃料計にてガソリン量を確認してください。
   燃料計の 1 セグメントと燃料残量警告表示、“F”、“E” が点滅しているときは、フューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
3. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチ “ON/◯” を押しましたか？
4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチ “ON/◯” を押しましたか？
5. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してから、6-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？

スタータースイッチ “ON/◯” を押してもスターターモーターが回らないときは、次の項目を確認してください。

1. 車両の電源は ON になっていますか？また、エンジンストップスイッチは “◯” になっていますか？
2. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチ “ON/◯” を押しましたか？
3. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してもスターターモーターが回らないときは、・・・・

- ヒューズ切れが考えられます。7-17 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で確認してください。

1. 車両の電源が ON になっていますか？
2. 各スイッチを作動させていますか？
3. エンジンは始動できますか？

以上のことを確認してもランプ類が点灯しないときは、・・・・

- ヒューズ切れが考えられます。7-17 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、ランプ自体の球切れが考えられます。「製品仕様」のページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（9-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？

燃料計でガソリン量を確認してください。燃料計の 1 セグメントと燃料残量警告表示、“F”、“E” が点滅しているときは、フューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

上記のことを確認してから、6-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

走行中、V ベルト交換表示 “V-Belt” が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店で V ベルトを交換してください。

JCA12531

注 意

V ベルトを交換しないまま走行すると、走行不能となるなど、故障の原因となります。

走行中、エンジンオイル交換表示 “Oil” が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。

推奨エンジンオイル：
ヤマルーブプレミアムシンセティック
ヤマルーブスポーツ
ヤマルーブスタンダードプラス

交換後、リセット操作をするとエンジンオイル交換表示は消灯します。

JCA12311

注 意

オイル交換をしないまま走行すると、エンジンが故障する原因となります。

走行中、ABS 警告灯 “(ABS)” が点灯または点滅したときは？

ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけて、直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

スマートキーシステムが作動しないときは？

スマートキーシステムが作動しないときは、次の項目を確認してください。

- スマートキーがロックの状態になっていませんか？3-5 ページを参照して、スマートキーをアンロックの状態に切り替えてください。
- スマートキーの電池が消耗していませんか？車両の電源をONする時にキー表示灯が約 20 秒点滅したときは、電池を交換してください。（3-6 ページ参照）
- 強い電波やノイズのある場所などで使用していませんか？スマートキーシステムは微弱な電波を使用しています。スマートキーシステムの作動を妨げる具体的な例については 3-1 ページを参照してください。
- スマートキーに電池が入っていない、または電池が正しく取り付けられていない状態ではないですか？電池の取り付け状態を確認してください。（3-6 ページ参照）
- 車に登録されている、専用のスマートキーを使用していますか？車に登録された専用のスマートキーを使用しないと、スマートキーシステムは作動しません。登録されている、専用のスマートキーを使用してください。
- 壊れたスマートキーを使用していませんか？ 3-3 ページを参照してください。壊れたスマートキーを使用した場合、スマートキーシステムは作動しません。
- バッテリーがあがっていませんか？バッテリーの電圧が低下しているか、バッテリーがあがっていると通信不良の原因になります。バッテリーを充電するか、交換してください。スマートキーシステムが作動しないときのバッテリー交換方法については、7-15 ページを参照してください。

以上のことを確認してもスマートキーシステムが作動しない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

メカニカルキーを使用してエンジンを始動する方法については、7-22 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

メカニカルキーを使用してシートのロックを解除する方法については、7-22 ページを参照してください。

エンジンが停止し、「ピピピピピピピ」とアラームが鳴ったときは？

故障ではありません。

エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止し、上記のアラームが約 5 秒間鳴ります。

JCA22550

注 意

サイドスタンドを出してエンジンを停止さ

せたときは、必ず車の電源を OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。

要　点

上記のアラームを鳴らないようにすることができます。詳しくは、ヤマハ販売店にご相談ください。

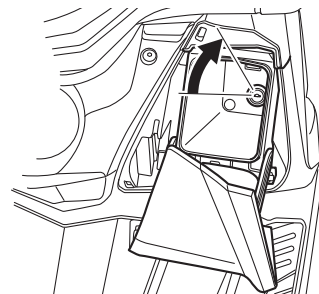
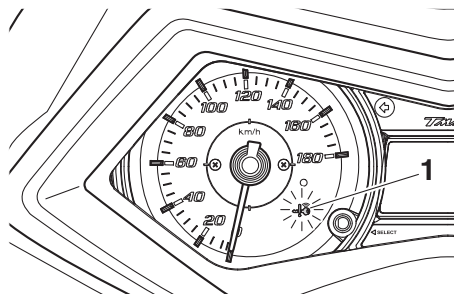
JAU61545

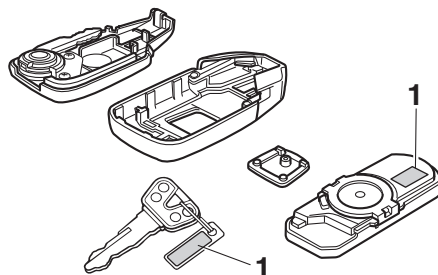
スマートキーシステムのエマージェンシーモード

スマートキーを紛失したとき、またはスマートキーの電池切れや故障などでスマートキーが使用できないときに、このモードの操作を行うことでスマートキーシステムをONにすることができます。

要　点

- 各操作を行うとき、それぞれの操作で決められた時間内に操作を終了しないと、エマージェンシーモードの操作を中止します。
- エマージェンシーモード中に車両の電源OFF 操作（OFF ／ハンドルロックスイッチ “OFF/LOCK” 操作）をすると、エマージェンシーモードが解除されます。

1. 車を安全な場所に停車させます。
2. フロントトランク内にあるキーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、時計方向へ回すことによって、シートロックを解除します。

3. シートを開けます。このとき、トランク照明灯が点灯していることを確認してください。シートを開けてもトランク照明灯が点灯しないときは、販売店へご相談ください。
4. スタータースイッチ “ON/⚡” を押します。
5. シートを開けた状態で、トランク照明灯の点灯、消灯を目安にしてシートの上げ下げ（シートのロックはしない）を 10 秒以内に 3 回以上行います。メーターのスマートキーシステム表示灯が 3 秒間点灯し、エマージェンシーモードに移行したことを知らせます。

1. スマートキーシステム表示灯 “ ”

6. スマートキーシステム表示灯消灯後、シートオープン／パーキングスイッチ “SEAT OPEN/P” を使って、スマートキーの内側に貼ってある ID またはスマートキーの ID タグを参照して ID を入力します。（ID の入力方法は、以下の手順を参照してください）

1. ID 番号

7. ID の入力数値は、シートオープン／パーキングスイッチ “SEAT OPEN/P” を押したときのスマートキーシステム表示灯の点滅回数を数えて行います。
操作例（ID:123456 を入力するとき）
シートオープン／パーキングスイッチ “SEAT OPEN/P” を押し続けます。
↓
スマートキーシステム表示灯が点滅を開始します。
↓

1 回点滅したところでシートオープン／パーキングスイッチ “SEAT OPEN/P” をはなします。
↓
1 番目（ID の左端）の数値「1」が確定します。
↓
再びシートオープン／パーキングスイッチ “SEAT OPEN/P” を押し続けます。
↓

スマートキーシステム表示灯が 2 回点滅したところでシートオープン／パーキングスイッチ “SEAT OPEN/P” をはなします。
↓
2 番目（ID の左から 2 つ目）の数値「2」が確定します。
↓
以下、6 番目（ID の右端）の数値を確定するまで繰り返します。
下記のどちらかに該当した場合は操作が無効となり、エマージェンシーモードを

終了します。このときは、ステップ「4」からやり直してください。
- IDの入力作業中に10秒以上、シートオープン／パーキングスイッチ“SEAT OPEN/P⋠”の操作が無いとき
- スマートキーシステム表示灯を10回以上点滅させたとき

8. 正しい6桁のIDを入力すると、スマートキーシステム表示灯が10秒間点灯します。
9. スマートキーシステム表示灯が点灯している間にスタータースイッチ“ON/⊜”を押すと、電源がONになります。

要　点

- 入力した6桁のIDが間違っていた場合はスマートキーシステム表示灯が3秒間速い点滅をし、エマージェンシーモードを終了します。このときは、ステップ「4」からやり直してください。
- スマートキーを紛失した場合は、予備のメカニカルキーとスマートキーのIDタグを使って同じ操作を行ってください。このセット（予備のメカニカルキーとスマートキーのIDタグ）があれば、エンジンの始動および新しいスマートキーの登録も可能です。新しいスマートキーの登録はヤマハ販売店にご相談ください。
- スマートキーを紛失した場合で、予備のメカニカルキーとスマートキーのIDタグも紛失してしまうとスマートキーシステム全体の交換が必要となります。詳しくはヤマハ販売店にご相談ください。
- エマージェンシーモードで電源をONにした後に電源OFFしたときは、電源OFF後30秒間はスマートキーの認証なしにハンドルを左に切って、OFF／ハンドルロックスイッチ“OFF/LOCK”を長押しすることでハンドルのロックが可能となります。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

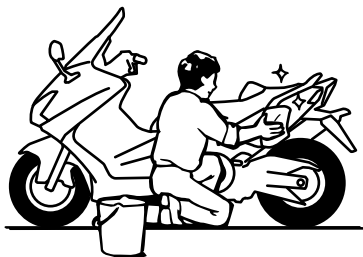
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27976

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス： ユニコンカークリーム

JWA11931

警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入っ**

たワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要　点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU27991

キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11951

⚠ 警 告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

JAU28051

ウインドシールドの取り扱い

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けてあるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドシールドの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11981

警 告

ウインドシールドとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA12231

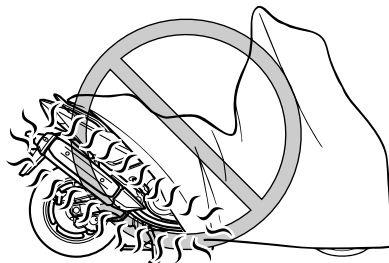
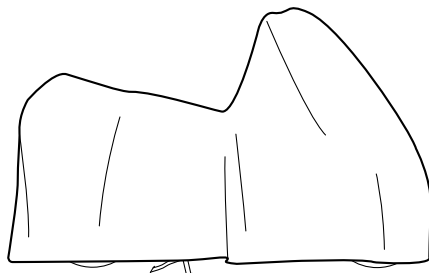
注 意

- **ウインドシールドにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるウインドシールドは使用しないでください。**

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、３か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28085

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28114

ヤマルーブプレミアムシンセティック

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性能を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスポーツ

高せん断安定性と同時に、高い低蒸発性を実現。オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなど過酷な条件下でも優れた性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスタンダードプラス

清浄性、高温酸化安定性を実現。温度に左右されない粘度特性を持ち、過酷な条件にも適しています。カジュアルなタウン走行から、タフな業務使用まで対応するオイルです。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下のURLを入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

http://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル

製品仕様

寸法 :

全長 :
2200 mm
全幅 :
775 mm
全高 :
1420 mm
シート高 :
800 mm
軸間距離 :
1580 mm
最低地上高 :
125 mm

重量 :

車両重量 :
222 kg
分布荷重（前）:
105 kg
分布荷重（後）:
117 kg
車両総重量 :
332 kg
分布荷重（前）:
129 kg
分布荷重（後）:
203 kg

乗車定員 :
2 名

性能 :

定地燃費（国土交通省届出値）:
27.0 km/L/60 km/h
最小回転半径 :
2800 mm
最高出力 :
35 kW@6750 r/min (48 PS@6750 r/min)
最大トルク :
53 Nm@5250 r/min (5.4 kgf-m@5250 r/min)

エンジン :

原動機種類 :
4 ストローク水冷 DOHC
気筒数・配列 :
直列 2 気筒
総排気量 :
530 cm^3
内径 x 行程 :
68.0 × 73.0 mm
圧縮比 :
10.9 : 1
エアフィルターエレメント :
湿式ろ紙
クラッチ形式 :
湿式多板オートマチック
変速機形式 :
V ベルト式無段変速
始動方式 :
セルフ式

車体 :

フレーム形式 :
ダイヤモンド
キャスター :
25.00 °
トレール :
92 mm

ステアリングシステム :

ハンドル切れ角（左）:
38.5 °
ハンドル切れ角（右）:
38.5 °

燃料 :

フューエルタンク容量 :
15.0 L
予備容量 :
3.0 L

フロントブレーキ :

ブレーキ形式 :
油圧式ダブルディスクブレーキ

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
懸架方式 :
種類（前）:
テレスコピック
種類（後）:
スイングアーム
緩衝方式 :
ショックアブソーバータイプ（前）:
コイルスプリング / オイルダンパー
ショックアブソーバータイプ（後）:
コイルスプリング / ガスオイルダンパー
フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
120/70R15 M/C 56H
メーカー / 銘柄 :
DUNLOP/GPR-100F
リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
160/60R15 M/C 67H
メーカー / 銘柄 :
DUNLOP/GPR-100
トランスミッション :
1 次減速比 :
1.000
2 次減速比 :
6.034 (52/32 x 36/22 x 59/26)
変速比 :
2.041–0.758 :1
エレクトリカル :
点火方式 :
TCI
バルブワット数 x 個数 :
ヘッドライト :
LED
テール / ブレーキランプ :
LED
方向指示灯（前）:
12 V, 21.0 W × 2
方向指示灯（後）:
12 V, 21.0 W × 2
番号灯 :
12 V, 5.0 W × 1
メーター灯 :
LED
マーカーランプ :
LED
パイロットランプワット数 x 個数 :
方向指示器表示灯 :
LED
ヘッドライト上向き表示灯 :
LED
ABS 警告灯 :
LED
エンジン警告灯 :
LED
キー表示灯 :
LED
エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス
エンジンオイル量 :
オイルフィルターカートリッジ無交換時 :
2.70 L
オイルフィルターカートリッジ交換時 :
2.90 L
冷却水容量 :
リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.27 L

ラジエターと全ての経路 :
1.50 L
ドライブベルト :
たわみ量 :
0.2 mm
ケーブルとレバーの遊び :
スロットルグリップ遊び :
3.0–5.0 mm
フロントディスクブレーキ :
パッド厚さ（内側）:
4.0 mm
使用限度 :
0.5 mm
パッド厚さ（外側）:
4.0 mm
使用限度 :
0.5 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)
リヤディスクブレーキ :
パッド厚さ（内側）:
8.0 mm
使用限度 :
0.8 mm
パッド厚さ（外側）:
8.0 mm
使用限度 :
0.8 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)
ホイールトラベル :
ホイールトラベル（前）:
120 mm
ホイールトラベル（後）:
116 mm
タイヤ空気圧（冷間時）:
前輪（1 名乗車）:
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪（1 名乗車）:
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
前輪（2 名乗車）:
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪（2 名乗車）:
280 kPa (2.80 kgf/cm^2)
高速走行 :
前輪（1 名乗車）:
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪（1 名乗車）:
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
前輪（2 名乗車）:
225 kPa (2.25 kgf/cm^2)
後輪（2 名乗車）:
280 kPa (2.80 kgf/cm^2)
バッテリー :
バッテリー型式 :
YTZ12S
バッテリー容量 :
12 V, 11.0 Ah
点火装置 :
点火時期 (B. T. D. C.):
5.0 ° /1200 r/min
スパークプラグ :
メーカー / 型式 :
NGK/CR7E
プラグギャップ :
0.7–0.8 mm
ヒューズ容量 :
メイン :
40.0 A
DC コネクターヒューズ :
5.0 A
ヘッドライト :
10.0 A
シグナル :
15.0 A
イグニッション :
7.5 A
パーキングランプ :
10.0 A

ラジエターファンモーター :
　15.0 A
フューエルインジェクション :
　7.5 A
ABS モーター :
　30.0 A
ABS ソレノイド :
　15.0 A
ABS コントロールユニット :
　7.5 A
バックアップ :
　7.5 A

JAU36641

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

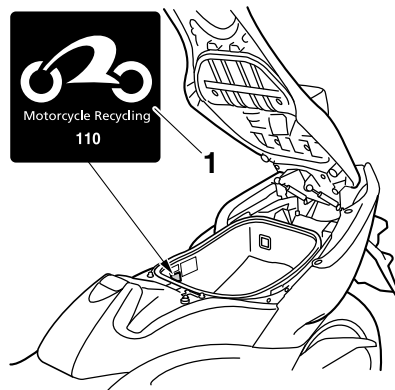
（社）全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。

1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。
（財）自動車リサイクル促進センターホームページ
http://www.jarc.or.jp/
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号　０３－３５９８－８０７５
受付時間　９時３０分～１７時００分（土・日・祝日・年末年始等を除く）

JAU28392

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

XP500A TMAX
サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-000-2PW

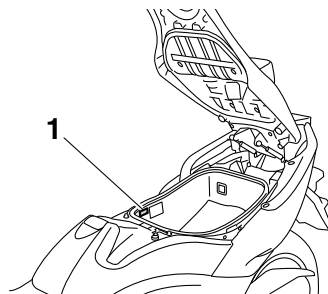
JAU28453

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

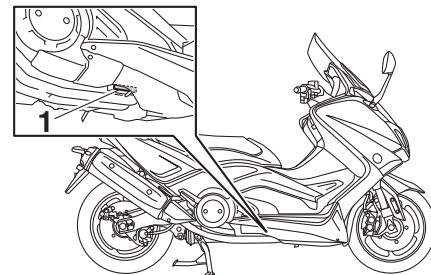
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、リヤトランク右側に貼り付けてあります。

1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は
XP500A TMAX
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

索引

ひ

ふ

へ

ほ

ま

も

り

れ

バイクライフをサポートするスマートフォンアプリです。

- お出かけスポット・イベント情報の検索やナビなど
- 燃費やメンテナンスなど愛車の情報管理

詳しくは WEB サイトで

つながるバイク

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

QQS-CLT-100-2PW

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2014.11-0.2 ×1
(J)